愛がなければ優しくなれない。勇気がなければ行動できない。

# 愛と勇気

2010年度 社団法人 呉青年会議所

# 事業報告書

2010年度　社団法人 呉青年会議所

## スローガン

# 愛と勇気

愛がなければ優しくなれない。勇気がなければ行動できない。

## 基本方針

1. 家庭における更なる連帯意識を醸成するまちづくり
2. 郷土愛溢れる地域の創造を目指したひとづくり
3. 「旬」や「鮮度」を見逃さない、インタラクティブな情報受発信
4. 個と組織の一体感を創り出すJCづくり


１．理事長報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
２．副理事長報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
３．専務理事報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
４．事務局長報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
５．愛と勇気のまちづくり室報告・・・・・・・・・・10
６．ＫＤ室報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
７．会員意識変革室報告・・・・・・・・・・・・・・・32
８．ブロック大会実行委員会報告・・・・・・・・・・50
９．出向者報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
１０．セクレタリー報告・・・・・・・・・・・・・・・62
１１．収支決算報告・・・・・・・・・・・・・・・・・63
１２．監査報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70

# 理　事　長　報　告

２０１０年度　社団法人　呉青年会議所
第５８代　理事長　　児　玉　嘉　則

２０１０年度　社団法人呉青年会議所はスローガンを「愛と勇気　～愛がなければやさしくなれない、勇気がなければ行動できない～」とし、４つの基本方針を柱に、３室５委員会、３特別委員会を設け、１年間事業展開して参りました。

## 互いを尊重しながら合意を形成し、

## 親子の絆を醸成するまちづくり

現代社会の様々な問題に大きく影響を及ぼしていることの１つとして、私は人と人との関係づくり、すなわちコミュニケーションのあり方について着目する必要があると考えました。

人が互いに想いや考えを伝え合い、共有することがコミュニケーションです。コミュニケーションなくして、お互いの人間関係形成はもちろんのこと、まちを愛する「心」は育ちません。

世界中のあらゆる情報をインターネットなどで瞬時に得ることができる情報化社会、科学技術の進歩が加速したスピード社会の中で、人は、より良い対人関係を築くために使う時間を軽んじてしまいました。

私が子供の頃には、家族で山や海へ出かけるときに地域の親や友達にも声をかけ、みんなで一緒に楽しんでいました。児童会活動を通じての楽しい思い出がよみがえります。子供が悪いことをしたら、親はもちろん、近所のおじさんやおばさんが他の家の子どもを叱るという光景も見受けられました。

今になって思えば、そのような回りの人たちとの日常でのやり取りは、社会の中で人と接するためのトレーニングの一つにもなっていたように思います。身近なコミュニティにおいて、子どもは意識する、しないに関わらず、人は人と、あるいは自然と共生しなければならないことや、自分に向けられる愛情を体で学び、同時にコミュニケーション能力を身につけていたのです。

私はコミュニケーションのもっとも基本となるものは、親子関係であると認識します。親子は、人間関係の基礎と言っても過言ではありません。おぎゃあと生まれて、はじめて持つ人間関係が親子の関係だからです。人は、親子関係を通して、多くのことを学びます。親に愛され、親を愛することを通じて、自分自身を愛すること、人を愛することを学びま

す。子供は次第に親から離れていきますが、なにかあれば親の元に帰れるという安全基地としての親（あるいはそれと同様の存在）がいてはじめて、外の世界、子供にとっては未知の世界に出て行く勇気が湧くのです。親子関係が崩れてしまったのでは、他の人間関係は砂上の楼閣でしかないのです。

２０１０年度､呉 JC は農地の一区画を家族向けにレンタルするという画期的な手法にて、日常生活ではなかなか味わえない経験を通じ、親と子が互いに向き合い、思いやり、夢や希望を抱き、そして本能で感じ、尊敬し合い、親子の絆が深まる体験を多くの参加家族にして頂きました。それらの経験は、永遠と心の灯火として消えることはないでしょう。

## 公の気概を持った個の力を結集し、

## 市民意識変革の効果を高めるひとづくり

変革の能動者たらん我々が理想とする明るい豊かな社会の実現を果たす為には、「個と公の調和」すなわち個人の価値観を最大限に尊重する事と、私達を取り巻く全ての公の和を尊重する事を同時にバランスよく考え、実際に行動に移していく事が必要となります。今後更に必要とされるのは、個と公のバランスの上に成り立つ社会なのです。

そのためには、この呉の歴史・自然・文化・施設などの資源をあらためて検証し、有形無形に関わらず、「魅力」を見出し、新たな価値として自信をもって創出していくことが必要でありました。また、我々のみならず、参画意識を醸成すべく、市民、行政等と意識を共有し「協働」で取り組んでいくことを重視しました。

具体的には市民討議会という手法を用い、無作為抽出で選ばれた一般市民に皆様と議論を重ね、実践にまで結びつけたのです。人とまちを繋ぐ独自性の高い「呉の魅力」と、人と人を繋ぎ相互扶助を生む「協働」という「呉の地域力」で、２０１０年度、呉 JC は市民意識変革の効果を高めるひとづくり事業を展開しました。

これらは今後の事業の貴重なサンプルとして活用されることでしょう。

人口や経済規模が大きいからとか、政令都市だからといった理由から誇りに思うのではなく、また、自分の権利の主張で終わるのではなく、自分のやるべきことを主張し、実際に行動し、貢献を考えるまちだからこそ誇りに思えるようになれたら、まちは大きく変わります。地域の方一人ひとりが身近な活動に参画する機会を通じて人間同士の協力や、つながりの大切さ、貢献する喜び、そして自らの可能性で社会が変わる実感を得てこそ、個と公のバランスのとれた社会の創造に繋がると確信しました。この「個」と「公」を尊重する精神は決して相反するものではなく、一人ひとりの心の中でバランスを保てることなのです。

## 情報の見極めによる受発信、情報資産の活用により

## 情報力を培う広報活動

広報の本質はPublic（公共との）Relations（関係づくり）、文字どおり公共への正しい認識を得るため、どのような内容を、どういう方法で伝えたらよいかということを追求するところにあります。そのためには、受手が何を必要としているのかを把握し、そして何を伝えるべきなのかを十分吟味のうえ情報を発信すると同時に、その反応を的確に受信し、今後の活動に活かす必要があります。よって、これまで以上に情報資産の活用を考慮し、情報力を培う広報活動を行う必要がありました。

そこでこだわったのが、呉ＪＣのホームページの充実、「旬」や「鮮度」を見逃さない情報受発信に加えて、「公共的に記事として取り上げていただける」パブリシティ活動でした。

参加者には「楽しそう！行ってみたい！」と思って頂きながら、それが結果的に「公」の「利益」になるもの・・・そのとてもむずかしい課題に真っ向から挑戦し大いなる結果を導き出しました。

これらは今後の呉JCの広報活動における貴重な財産になったと確信しています。

## 同志である広島ブロックのメンバーの「心」を魅了し、

## 更なるＬＯＭの活力へ結びつける

２０１０年度、呉JCは第４０回広島ブロック会員大会を主管させて頂きました。２０００年に広島ブロック会員大会主管をさせて頂いてから１０年の月日が経ちます。

この１０年に１度という記念すべき会員大会において、今後１０年の礎になるように開催するために、これまでの既成概念をリセットし、根本から設計し直すことからはじめました。

呉らしさを存分に活かすこと。同志が一堂に会する場だからこそ、そのスケールメリットを存分に活かすこと。公益を十分に意識した大会にすることに重点を置きました。

結果、未だかつてない２日間開催とし「子供の未来創造プロジェクト」を中心にしっかりとしたメッセージ性をもった、有意義な大会にすることができ、同志である広島ブロックのメンバーの心を魅了する大会になったばかりでなく、地域の方に我々の想いを伝え、より公共性のある made in 呉の会員大会になったと確信します。

また、本大会を主管するという経験を通して、メンバー全員が一致団結し、そして１人ひとりの自信と成長に繋がったことも大いなる成果となりました。

## 愛する「心」、行動する「勇気」こそが、

## 真に豊かな社会の源である

マザーテレサは「愛という言葉の反対語は無関心です。それは愛がないことと同じです」と語りました。多くの人は愛の反対語を憎しみ、争い、責める等の言葉を思い浮かべるかも知れません。しかし「この世の最大の不幸は、自分は誰からも必要とされていないと感じること」なのです。人に認められれば力になろうという気持ちも沸きます。愛する「心」とは、相手に何かを期待するのではなく、思いやりの心を持ち、真摯に向き合い続けることなのです。同時に、愛する「心」は私たち自身を突き動かす大きな力であるのです。

我々は愛する家族、愛する友達、愛するまちのために、どんな困難にも勇猛果敢に挑戦して参ります。愛する「心」は、様々な行動を起こす原動力であり、このまちを心豊かな社会にするために必要な心なのです。

**愛する「心」と行動する「勇気」があるのなら、**

**見返りを求めずに、真っ直ぐに進もう。**

**失敗を恐れることなく、自分と仲間を信じて。**

**愛する「人」のために。愛する「まち」のために。**

# 副理事長報告

副理事長　岩本　貴紀

「公」の為に何を成し遂げていけるのかということを念頭に、本年度活動を推進してまり入りました。青年会議所活動は、より「公」に対して直接的で、能動的な活動をしていくからこそ団体としての存在意義が確立されるのです。この１年間、総務・広報ラインを担当させていただき、より直接的で市民の皆様に共感を得れるようにと試行錯誤しながら、新しい事にも挑戦しました。新しい手段であるメディアが溢れる中、より共感を得ることが出来るものとはやはり「人」としての繋がりを、目に見えない中でもより努力することで、公的な市民の皆様と青年会議所メンバーの双方向意識交換の効果が、より強固なものに築かれます。内部的な事にはなりますが、青年会議所への所属を確認する場である例会等を、本年度は当たり前のことを、当たり前にすることは当然ではありますが、さらにその所属意識を高める工夫もしてまいりました。しかし、近年の色々な情勢の流れもあり、青年会議所のメンバーとしての所属意識の低下や、熱意が消沈していることも否めません。しかし、諦めることなく、より強力に熱い心を持って、内部的な規律規範、伝統的な慣習、組織論は継続して訴えなければならないのです。

第４０回日本青年会議所中国地区広島ブロック協議会会員大会を主管させていただきました。ただ単にこなしていくだけの会員大会にするのではなく、県内の青年会議所メンバーに対し、そして広島県民・呉市民の方々に何をどのように運動発信していくのかを何度も何度も考えながら事業立案をしました。１０年に１度という記念すべき会員大会において、今後１０年の礎になるように開催するために、多くの事の変革に挑みました。呉のスケールメリットを生かし、一般の皆様にもより共感して頂き、それが今後の皆様の行動の手助けになる様に切願し事業展開させていただきました。全てにおいて手作りで、既成概念に囚われることなく事業計画から練り、特に「子供の未来創造プロジェクト」におきましては、長時間に亘る開催にも関わらず、多くの方々に共感を得ることが出来たと感じました。

年間を通じて、青年会議所の現状を憂う場面が幾度となくあり、悩む場面も多くありました。わたくし事ではありますが、本年度で卒業させていただきますが、いつになっても普遍的な事は、全ての活動は「人」が行動して成り立ちます。その「人」は、どんな時も絡み合い、繋がっていかなければなりません。「人」繋がりを丁寧に心を込めて保っていけばどんなことでも実現可能と考えます。

「人は皆誰かの役に立ち、喜ばれる為に生れてきています。誰かの役に立ち喜ばれる実感が人をさらに成長させます」

１年間多方面にわたりご迷惑をおかけいたしました。そして心よりお礼申し上げます。

有難うございました。心より感謝申し上げます。

# 副理事長報告

副理事長　宮下　佳昌

今年度、私のラインでは「明るい豊かな社会」の実現のために「郷土愛溢れる地域の創造を目指したひとづくり」に取り組んでまいりました。市民討議会という新しい手法によって、呉市民の中から無作為で抽出した方に、今このまちが抱えている問題点ついて討議していただきました。さらに、ただ討議するだけでなく、その問題を解決するべく実際に行動に移すというところまで行いました。自分さえ良ければいいという利己主義が蔓延している現在において、まちのために、ひとのために行動することが如何に素晴らしいことかということを経験していただいたことで、市民意識の変革につながったと考えます。

年頭初、「百匹目の猿現象」について言及しました。１人が変われば１００人が変わる。１０人が変われば１０００人が変わるという意味です。このまちを明るい豊かな社会にするために率先して行動する呉市民、ＪＣメンバーを少しでも増やしていくという今年度の取り組みはある一定の効果をもたらせたと思いますが、ここまでで終わらせることなく、今後とも継続していくことをお誓いして一年間のお礼とさせていただきます。

ありがとうございました。

# 副理事長報告

副理事長　増木　芳行

近年の社会情勢は、ことさら「心」の問題が取り上げられています。いつの時代も人は強くなければ生きて行けません。或いは本能的に強くなろうとするのではないでしょうか。しかし、人は強くなればなるほど、同時にその強さに見合うだけやさしくならなければなりません。現代の世の中は、強さとやさしさのバランスがとれていないように感じます。強さに見合うだけのやさしさを育まなければならないのではないでしょうか。

２０１０年度呉青年会議所では、「愛と勇気」のスローガンのもと様々な事業を展開してまいりました。当方のラインでは、「家庭における更なる連帯意識の醸成」というテーマに取り組んでまいりました。

スローガン「愛と勇気」には、「愛がなければやさしくなれない」とあります。

やさしさの源は愛であり、愛の原点は家族愛にこそあるのではないでしょうか。人は、家族の中で愛を感じ、やさしさを覚え、そのやさしさをもってさまざまな社会へと旅立ち、いずれまた次世代へと愛を繋いでいく。この原点である家族愛に焦点を当て事業を展開してまいりました。

事業内容の詳細は、実際に事業を中心となって企画・実践していった室長、委員長にゆずりますが、年間を通して、思いを形にしてくれた柴崎室長、山本委員長の両名には感謝の気持ちでいっぱいです。また、家族の絆創造委員会のメンバー、そして呉青年会議所の全メンバーに対しても感謝の気持ちと共に、こんなにもたくさんの仲間がいることをあらためて感じることができました。

最後になりますが、事業を遂行するにあたり、呉市役所関係者、いなし協議会、国際大学まちづくり研究会、ほかたくさんの方々のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

次年度以降も呉青年会議所は、多くの仲間と共に少しでも「明るい豊かなまち」を目指して活動してまいります。引き続きのご指導、ご鞭撻、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

# 専務理事報告

専務理事　　相原　新太郎

２０１０年度は、専務理事として似役割を果たすべく１年間頑張らせて頂きましたが、果たしてその役割を全うできたかについては甚だ心許ないというのが正直な実感です。その反面、専務理事をしていなければ気付かなかった点もいくつかあり、これを披露することで専務理事の報告に変えさせて頂きます。

（社）呉青年会議所は、地域社会をより「明るい豊かな社会」に近づけるべく日々活動する団体ですが、その実践のために理事長の定めた基本方針を忠実に遂行する「委員会」が存在します。委員会は基本方針の達成のために１年間頑張ります（対外的活動）。それと同時に委員長を初めとする委員会スタッフ、メンバーに達成感や充実感を抱かせ、自らの成長に変えて欲しいという想いもあります（対内的希望）。この両者を同時に充たすことを毎年度の理事長は望まれるわけですが、そういった理事長の思いを補佐するのが副理事長及び専務理事の役割であることを痛感いたしました。

特に専務理事は、副理事長と異なり組織図上は委員会と繋がっていないので、委員会が対内的希望に偏っていると判断される場合には、対外的活動とのバランスを取るために理事長との協議の上で努めて冷静な対応を取らなければなりません。

このような対応は人によっては冷たいとか人間味がないと評価されることもあり、専務理事はこのような評価も甘受しなければならない役割であることを知りました。

この点、私は一面では非常に人間味のない対応を取り、また、ある一面では非常に甘い決断をしたことがしばしばあり、反省すべき点が多々見受けられましたが、その点を補ってくれたのも理事長以下メンバーの皆様でありました。

２００７年度に委員長をさせて頂いた際は、ただひたすらに対外的活動に目を向けていればよかったのに対し、２０１０年度は対内的希望とのバランスも考えなければならないことに気付かされました。

２０１０年度の活動に関わって頂けました全ての人に感謝いたします。

なお、併せて、公益法人改革への対応に関し、具体的な問題が生じた場合に備えて公益法人改革検討会議を設置し、その議長も務めさせて頂きましたが、申請・準備に際し具体的な問題が生じなかったため、会議の開催はなかったこと、ご報告させて頂きます。

# 事務局長報告

事務局長　宍戸　勇二

事務局運営には各種会議資料作成、会議設営、適正な予算管理等の様々な業務があります。会議資料作成においては予算等々の調整をするためにセクレタリーと共に夜遅くまで資料作成をおこなってまいりました。そんな中で会計担当理事として、予算面では何故必要なのか費用対効果まで考えないといけません。この効果は計算で出るような代物ではないことから、これらを測るのは非常に難しく思えました。こちらが思っている以上に効果があるもの、片や思ってた以上に効果が得られないもの何がどのように組み合わさりどれだけの効果がどのぐらいあるのか、おこなう前から諦めずにやってみないとわからないことを非常に感じました。

本年度は公益社団法人移行申請準備をおこないました。自分なりではございますが公益社団法人についていろいろ調べたり、セミナーに参加したりしながら専務理事とともに進めてしてまいりました。セミナー等参加し、話を伺っても予算などの認められる基準が曖昧なところもありこちらが適正であろうと思っても検査官により認められないなど、非常に判断基準が難しいところもあります。残念ながら２０１０年度での公益社団法人格への認定移行にはいたっておりませんが、前年度同様、公益社団法人認定に向けて更に前進したものと思います。公益社団法人認定まであと少しのところまできております。今後も公益社団法人認定に向けて進めてまいります。

そして２０１０年度は第４０回中国地区広島ブロック会員大会が呉で開催されました。
財務担当として限られた予算のなか、確定しない人数の推定をおこなったり、各部会より上げられてくる予算それらが適正であるか等の判断基準は非常に難しいことであると感じました。そしてメンバー、関係者の皆さまのおかげを持ちまして無事に第４０回広島ブロック大会も終了することができました。

皆さまのおかげをもちまして２０１０年度は無事に終了することができました。次年度以降にも２０１０年度に私が出来た事、出来なかった事を経験上として伝えていくことをお約束して事務局長報告と変えさせていただきます。
１年間ありがとうございました。

# 愛と勇気のまちづくり室

## 室　長　報　告

室　長　柴崎　学

本年度、愛と勇気のまちづくり室では、室のスローガンを「共感」と掲げて、地域社会における最小コミュニティーである「家族」に焦点をしぼり「家庭における更なる連帯意識の醸成」というテーマに取り組んでまいりました。

そして、「家族における更なる連帯意識」＝「家族の絆」と位置づけ、家族の絆を醸成する為の、様々な要因・要素を抽出し年間の事業を計画の中で、生まれた事業が「家族ふれあいの里」であります。
これは、休耕地を利用した自然の中で、家族で作物を育てるという目標を持ち協力し合うことで、時間を掛けて家族の絆は醸成されて行くものであると考えました。

しかし理想と現実は厳しく、毎週参加や家族全員参加、そして車が無いとその場所に行けないことなど様々な縛りによって、参加定員を大幅に下回りる結果となったことは否めませんので、今後、事業を計画する折には、事業テーマのみならず、より参加者目線に立った計画を行わないといけないと改めて痛感致しました。

この経験も前向きに捉え、大テーマでもある「明るい豊かなまち呉」に向けて、猛進して行きたいと思います。

最後になりますが、「家族ふれあいの里」が始まってから約半年間、一番日焼けをして先頭を突っ走った山本委員長や、それを支えた森田副委員長と吉田幹事、委員会メンバーには感謝の気持ちでいっぱいです。
そして、呉青年会議所メンバーの皆様は勿論、呉市役所関係者、いなし協議会、国際大学まちづくり研究会、ほかたくさんの方々のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

一年間、本当にありがとうございました。

# 家族の絆創造委員会

## 委員会報告

委員長　　山本　純也

〔スローガン〕　見えるキズナ

事業背景：　近年、家族のコミュニケーションが希薄化していると言われています。その要因として挙げられることは、共働きによる子どもと共に過ごす時間が少なくなっていることや、核家族化によって家族の単位そのものが縮小されていること、或いはこころで関わるよりも物やお金で解決しようとする傾向さえもあるように感じます。すなわち、家族の絆が薄くなっているのです。この家族の絆を深めるためには、家族内でのコミュニケーションをとることが必要不可欠です。なぜなら、親は子の気持ち、子は親の気持ちを顔色だけでは判断できないからで、本当の気持ちを知るためには会話をして相手の真意を確認しなくてはいけません。しかしながら真意を確認するためには日々の生活の中で、常にコミュニケーションが活発に行われていないとできません。そのために、沢山の家族に休耕地を利用した「かぞくふれあいの里」で家族の団らんを育んで頂きながら、家族を感じてもらうことで家族の絆を理解してもらいたい。
そんな家族が溢れるまちに少しでも近づければと考えました。

事業目的：　沢山の人のこころに家族の絆の大切さに気づいていただく、また家族の絆が深まる事業を実践し「こころ豊かな家族の絆が溢れるまち」呉を目指す。

事業概要（方法）：　実施期間は募集期間を含めて 5 月～10 月末までの約半年間で毎週日曜日に集まるようにしました。呉市安浦町中畑地区の休耕地約 3000 ㎡を利用して主としては、参加家族 25 組に約 25 ㎡をレンタルして夏野菜や花の栽培をしていただきました。
情報の共有や掲示板としてブログを開設して活用していきました。
7 月からはパン窯を設置してピザ作り教室などを行い、ふれあい広場を開設して里内にある竹を利用した竹細工教室なども行いました。
8 月２３日には「ふれあいフェスタ 2010 夏」と題して里で参加家族対抗の里リンピックを開催してひと夏の家族の思い出を造って頂きました。９月からは秋野菜を栽培して頂きながら、１０月３１日には閉里イベントを開催して参加者と里の軌跡を見ながら幕を下ろしました。

# 事業名：家族の絆創造事業　「開拓編」

日　時：　２０１０年４月末～５月２３日（日）
場　所：　呉市・呉市安浦町中畑地区
協力団体：呉市・呉市教育委員会・緑の里いなし運営協議会・広島国際大学
参加人数：９２名
事業目的：家族の絆創造事業への参加者を募ると共に、実施場所の整備や安全確保をする。参加者に対して事業説明会を開催し、家族の団欒を育むための第一歩にしてもらう。
事業概要（方法）：長期参加型の家族の絆創造事業の幕開けとして、参加者の募集を行うと共に安全且つスムーズなスタートができるように、会場の整備を青年会議所メンバー中心に行いました。
また、該当家族に対して、現地にて事業説明会を開催する予定でしたが、大雨で急遽広島国際大学黒瀬キャンパスの体育館で「かぞくふれあいの里」里開きを行いました。

検証方法と効果：参加者にアンケートを実施し検証を行い、その中の回答から効果を検証致しました。アンケートの結果から、良くわかった、わかったという回答ばかりで、わからなかったという回答はございませんでした。その結果から、説明会で伝えたかった里のイメージ、自由区画の使い方等ご理解いただけたのではないかと思います。

# 事業名：家族の絆創造事業　「準備編①」

日　時：　２０１０年６月～１０月３１日（日）
場　所：　呉市・呉市安浦町中畑地区
協力団体：呉市・呉市教育委員会・緑の里いなし運営協議会・広島国際大学
参加人数：８８８名
事業目的：参加者と共に、楽しみながらふれあいの里を創っていく中で、家族での協力、家族間交流、参加者の自発性を促しながら、こころ触れ合う団らんを育む。
事業概要（方法）：５月３０日～６月２０日は、区画ごとに表札を作成してもらい、自由区画前に設置、土造り(肥料、石灰を土に混ぜる)、畑に植えるものを考えてもらい、畝のレイアウトを決めて畝造りをして、種、苗を植えました。

苗　(スイカ、なす、ピーマン、トマト、プチトマト、きゅうり、バジル、大葉、さつま芋)

種　(オクラ、とうもろこし、ねぎ、枝豆、ひまわり、里芋)

ほとんどの参加者が初心者であったため、農協、いなし協議会の協力で農業指導をしてもらい、畑を作ることができました。

６月２７日～７月４日は、水遣りや草取りなどの畑の管理をしてもらいながら、芽の間引きを行い作物が大きく成長するようにしました。

７月４日にメンバー中心にパン窯の作成を行い、翌週に行うピザ作り教室に向けて連日釜の火入れやピザの試作を焼いたりしながら釜に慣れるように努力しました。

８月２９日～１０月３１日は、ふれあいフェスタ 2010 を終えての里では、残暑の中１０月末までに収穫可能な秋野菜のリストを作成しブログや掲示板で参加者に情報発信を行いました。熱心な参加者については、収穫を終えたものを取り除き自ら苗や種を持ってきて畑に植えていましたが、２～３組の参加しかありませんでした。

その他にも、ふれあい窯コンテストの最優秀ピザをみんなで作って食べませんか？と情報発信をして、ベッキオ店長要垣内氏に来て頂きまして、参加者とピザ生地の作成から焼きまですべてを通して参加家族にしてもらい、最優秀ピザのレシピ通りのとてもおいしいピザをみんなでたべることができました。参加家族４組で期待通りの動員には繋がりませんでしたが、少ない参加者での開催では家族間交流が活発に行われており、雰囲気は良かったです。

検証方法と効果：　検証方法としては、この後に行われる予定となっている実施編で参加者にアンケートを書いてもらいます。感動の多さで検証したいと思います。
単なる農業体験ではなく、各自で区画を責任持って家族で管理してもらうことにより、家族で向き合うこと、協力することの大切さや楽しさを感じて頂き、家族共通の話題を持つことにより家族の団らんに繋げて頂きました。
子どもたちの好奇心の向上や嫌いな野菜も自分が植えて育て収穫することにより、野菜に愛着が湧き美味しく食べられるようになったと参加者の声を頂きました。

# 事業名：家族の絆創造事業　「準備編②」

～いってみたい、やってみたい～

日　時：　２０１０年7月～１０月３１日（日）
場　所：　呉市・呉市安浦町中畑地区
協力団体：呉市・呉市教育委員会・緑の里いなし運営協議会・広島国際大学
参加人数：８８８名
事業目的：参加者と共に、楽しみながらふれあいの里を創っていく中で、家族での協力、家族間交流、参加者の自発性を促しながら、こころ触れ合う団らんを育む。
事業概要（方法）：７月１１日ピザ作り教室の開催では、ベッキオ店長の要垣内氏を講師として招き、参加家族１８組にピザ生地の作り方や生地の伸ばし方、トッピングの仕方、焼き方などをレクチャーしてもらい家族ごとにピザを作ってもらいました。トッピングについては、事前に家庭で家族に考えてもらったトッピングの材料も持ってきてもらい各家族オリジナルのピザを作り食べて頂きました。要垣内氏と事前にパン窯での試作を重ね、生地の配合も調整した結果として参加家族全員に美味しいピザを食べて頂くことができ、家族共通の話題づくりにもなり家族の団らんを育むには最良の手法の一つでありました。

７月１８日パン作り教室の開催では、先週に引き続き、ベッキオ店長の要垣内氏に講師をして頂き、参加家族１０組にパン作りを体験してもらいました。前回同様に、各家庭でオリジナルパンを考えて来てもらい里ではもちろんですが、家庭でも家族の団らんを育んで頂きました。

ピザ教室に比べ参加者が減少したことについては、ピザ以上のインパクトに欠けていた事が１番の原因と考えます。しかしながら、参加していただいた家族の皆様には味や見た目の出来に差はあったものの家族で楽しんでもらいました。

８月　１日　パン窯応用編教室の開催では、パン窯を使っての最後の料理教室は、要垣内氏が日ごろからお店で作られているイタリア料理をレクチャーしてもらいました。

料理の内容としましては、パエリア、鶏のハーブ焼きでしたが、前回、前々回に行ったパンやピザも一緒に作ってもらいパン窯をフル活用して行いました。

参加者の皆様に少しでも早くパン窯に慣れてもらい、家族で自由に窯を使って団らんを育んでほしいという思いから、続けてパン窯教室を開催していきましたが、開催ごとに参加者が減少していきました。

初回のピザ教室が好調だっただけに、もう少し思考を凝らし魅力ある教室にすべきであったと考えます。

竹細工教室の開催については、パン窯教室と平行して竹細工教室を開催しました。導入編として料理で使用する箸や皿を作成してもらい、ふれあいフェスタでの里リンピック競技にしていました竹とんぼを作成してもらいました。

８月８日、１５日には、ふれあいフェスタに向けての竹とんぼ作りに挑戦して頂き、未完成品については道具の貸し出しを行い家庭でも作成し

てもらいました。参加できない家族については、個別に対応したり平日に時間を設けて臨時の竹細工教室も開催致しました。
閉里については、１０月３１日をもってかぞくふれあいの里を閉里致しました。当日午前中は、参加者と共に里の片付け、さつま芋堀を行いました。昼食には午前中に取れたさつま芋を焼き芋にして食べたり、里での最後のピザをみんなで作って食べました。午後からは、閉里式を畑下にあるトンネル内で行い、プロジェクターでの里の軌跡上映やいなし協議会から提供していただいた野菜やお米を使用して、じゃんけん大会で盛り上がり閉幕致しました。

検証方法と効果：検証方法としては、毎週行われる各種イベントでの参加者の感想や意見などを集約して検証する
パン窯教室では家族で参加していただき、当日までに家庭で話し合いをしてもらいピザの作成であればどんなトッピングにするか考えてもらいました。これにより里以外でも家族の団らんを育んでもらい、継続的な団らんにより家族の絆を深めて頂きました。
竹細工教室においても、父親が子どもに小刀の使い方を教え、協力しながら箸や竹とんぼを作成しており、参加者の中には未完成品を家で完成させるために、道具を貸してくださいと言ってくる方もおられました。更に、自治会でそうめん流しをしたいので竹を切らしてくれませんかと連絡してくる参加者の方も出てきて、メンバーと共に作ったこともありました。これらのことから、参加者の自発性の向上にも繋がったものと考えます。

# 事業名：家族の絆創造事業　「実施編」

**ふれあいフェスタ２０１０　夏　～心に残る家族の絆～**

日　時：　２０１０年8月２２日（日）１０：００～１６：００
場　所：　呉市・呉市安浦町中畑地区
協力団体：呉市・呉市教育委員会・緑の里いなし運営協議会・広島国際大学
参加人数：８２名
事業目的：家族が協力し合いこれまで築いてきた絆を本事業により深いものにするとともに、そこで一生の思い出を心に刻んで頂き、その後も継続する団らんを構築し、家族の絆を醸成していただく。
事業概要（方法）：家族の団らんの必要性を理解し、日常生活においても団らんを継続して行う家族になれるように、自由区画を通じて行った作物の栽培、パン釜教室、竹細工教室といった、家族で一緒に取り組んだ内容に基づき、その成果を競い合ったり、確かめ合う最終的な事業を実施しました。
朝１０時にふれあいの里に集合して、開会式後に参加者が育てた野菜を収穫してもらい、参加家族全員に自由区画での今までの苦労話や家族の変化などを発表してもらいました。収穫してもらった野菜は昼食用のカレーの材料にしました。引き続き、里リンピック①としてピザコンテストを開催しました。事前に各家庭でオリジナルピザを考えてきてもらい、受付順にピザを作成して審査員が試食をして点数をつけて順位をつけました。ピザコンテストの順番待ちや終了した家族には、昼食用の竹飯ごうやカレー作りのお手伝いをしていただきました。昼食では、みんなで作ったカレーや流しそうめんを食べて懇親会①中に、ピザコンテストの結果発表を行いました。
午後から里リンピック②として、竹複合競技を行いました。
事前に作成して頂いた竹とんぼ競技、竹馬タイムトライアル、竹水鉄砲を使用した射的の３種目で競っていただきました。
里リンピック終了後に、懇親会②として里で栽培したスイカを半割にして、これを器にしたスペシャルスイカカキ氷を家族で食べたり、パン窯で焼いたメロンパンを食べていただき休憩をしていただきました。この休憩中に里リンピック②の結果発表と総合結果発表をおこない、総合優勝家族にはパン窯１基プレゼントすることを発表しました。
パン窯の移設については、閉里後に優勝家族と打ち合わせを行い、１２月までに完了するように計画をしております。委員会で責任を持って移設致します。
最後に、里でのひと夏の家族での思い出作りとして、勾玉キットを使用して家族オリジナル首飾りを作っていただきました。
とても暑い１日でしたが、熱中症や怪我もなく参加家族にはとても楽しい時間を過ごしていただくことができました。
検証方法と効果：検証方法は家族発表で、参加家族が開里から現在まで、どの様に変わったかの発表を集約し、そこから検証致しました。
「参加者の声」

- 自由区画で家族で協力して土作りから畝作り毎週の水遣り、草とりなどをしながら野菜を育てましたが、ちゃんと収穫することができてよかった。
- 子どもが今まで野菜をあまり食べなかったが、自分が育てた野菜はおいしいと言って食べるようになりました。
- 家でも畑の話題で家族で共通の話をする時間が増えました。
- ８月の雨が降らず、とても暑い時期には夫婦で協力して平日にも畑

に行って水遣りをして、おいしい野菜を収穫することができました。

- 畑という家族共通の場所で家族が協力し助け合うこと、自然に向き合うことができて大変よかった。家族の絆が深まりました。
- 毎週準備をしていただき、家族で楽しむことができました。青年会議所のメンバーの皆様には大変感謝しております。

参加者の声から、参加していただいた家族には里においても、家庭においても団らんを継続して行っていただいており、畑というツールにより家族が向き合い、協力することをしてもらいました。
参加家族には、これらを継続することにより団らんの大切さに気づいてもらい、実施編により思い出として心に刻んでもらうことができました。

# Ｋ　Ｄ　室

## 室　長　報　告

室長　高橋　征司

当室では、「郷土愛溢れる地域の創造を目指したひとづくり」という当会議所の本年度の年間基本方針について、呉人開発（**ＫＤ＝K**URE-Jin **D**evelopment）の実践に、２つの委員会で取り組んで頂いた。ここで言う「呉人」とは、「自分たちが住む呉のまちに対し、問題意識や責任意識を持ち、こだわりや説得力のある発言と行動ができる、真の郷土愛をもった市民」と定義し活動を進めた。郷土愛創造委員会では「意識改革」をスローガンに、この課題に取り組んで頂いた。

課題の解決にとって肝要な点、所謂サイレントマジョリティ（普段は声を上げることのない大多数の一般の市民）と呼ばれる市民をターゲットにアクションをかける方法として「市民討議会」を実施。参加頂いた市民の方に「まちに対する関心や問題意識」を持って頂き、その市民の方々自身に「まちに対して今、私たちができること」を、実際に企画・実践して頂いた。

市民参加型の事業において、参加対象者の偏りという点で課題を有していたこれまでの取り組みに、新たな可能性を提示し実施できたことは、事業の本質的な目的の達成という部分でより高い効果を見出せた。

また、今年度の委員会では、「市民討議会」を「まちへの関心や問題意識」を持っていただく「きっかけ」として実施したが、「市民討議会」自体は、現在、行政が積極的に取り組んでいる「市民協働」に非常に有効な手法であり、「市民討議会」の報告書を行政に提出し、その有用性と継続実施へ向けた提案を行った。

未来の礎育成委員会では「礎の条件」をスローガンに、自らが率先して「呉人」たらんとすべき未来の青年会議所メンバーの育成に取り組んで頂いた。

「呉人」たらんとする「精神力」と、それを実行に移すに必要なスキル「実践力」とを棲み分けて年間の活動を展開して頂き、特に今年度、新たな取り組みとして実施して頂いた後者に関しては、公益社団法人への移行に伴い、事業としての実施が困難になるだろう「メンバースキルの向上」という部分の補完に可能性を提示できたと感じる。結果として、８名の「呉人」たらんとする青年が、新しいメンバーとして産声を上げることが出来たことを心強く感じている。

また、「未来の礎開発事業」として実施した、新しい同志の発掘においても、例年の「紹介型」の手法に加え「体験型」を取り入れて実施した部分は、今後、内容を発展させながら継続的に実施していけば、効果が上がってくるのではないかと期待する。

本年度、両委員会の取り組みを通じて再確認したことは、「明るい豊かな社会の実現」を理想とし運動を展開している、我々Ｊａｙｃｅｅが、常に「呉人」たるべく自問自答し、研鑽を重ね、それを高い次元で、このまちに対して実施していかなければならないということである。

**『呉人（くれじん）』～わしら呉がすきじゃけん！～**

我々が、この思いを強く胸にもって、今後もＪＣ運動に取り組んでいきたい。
今後ともよろしくお願いします。

# 郷土愛創造委員会

## 委員会報告

委員長　濱本　陽平

〔スローガン〕意識改革

２００６年１２月に小泉政権下におきまして、地方分権改革推進法が成立致しました。
その内容は、地方に権限と財源を委譲し、地方の自主性と独自性を持って地域を高めていくという政策です。
つきつめると、地域の住民が自らの地域に責任を持って、自ら考え、自らの手で治めていく、そのような時代にどんどん進んでいくということです。
そのような動きの中、さまざまな問題を、これから各自治体は限られた財源の中で行っていかなければならず、さらに厳しい行政運営をなされていくということとなります。
それは、私たちの故郷である呉市でも例外ではありません。
そのような中、私たち市民が、今まで以上に自分たちのまちに関心を持ち、自らが行動する、真の郷土愛を持つことが重要となり、それを認識してもらう必要があるのです。
２０１０年度、郷土愛創造委員会では、「意識改革」をスローガンに、**市民が故郷に対し愛情やこだわりをもった発言をし、発言した内容に対し責任を持って行動をできる人を郷土愛をもった人「呉人」と定め、その「呉人」を育成し、郷土愛を創造することを目的に、まず、自分たちの町のことを自らのことであると知り、言葉として意思表示してもらうため**に、中国地方では初の試みとなる「市民討議会」を実施することとし、５、６、７月にその「市民討議会」を理解・体感することで、実際の「市民討議会」の実施時の効果を向上させるため一連の流れを、模擬的におこないました。そして、周到に、検証、準備をした上で、「呉人」になるために必要な市民の「意識改革」において、有効な手段である「市民討議会」を、公平無作為に抽出された、サイレントマジョリティたる市民の皆様の参加による、くれ市民討議会２０１０　『Future with us』～私たちの声を未来に～を１０月１７日に実施し、自分たちが議論することにより、意識改革の始まりを実感していただきました。
その後、市民討議会に参加したことで意識改革された市民の皆さんと共に、自分たちが自分たちの街を思い、言葉にしたことを行動に移し、真の『呉人』となるべく、改めて自分たちに『何が出来るか』を具体的に考える場を設け、討議し、呉市より使用の許可をいただいた古川公園を利用し、『昔懐かし遊び塾』～もちつき体験しながら昭和の遊びを楽しもう！～を行い具現化しました。結果として、参加いただいた市民の皆様からも、大変良い反響をいただき、今後もこのような活動を続けていきたいとの言葉をいただけたことで、この「呉人」の周りから、また新たな呉人たちが生まれていくことを確信し、また祈念いたします。本年度、当委員会にご協力いただきました、全ての方々に感謝しております。ありがとうございました。

## 事業名：５月例会

### サブタイトル：「市民討議会」ってなに？
### ～知ろう！やってみよう！「体験版！市民討議会」その１～

日　時：２０１０年5月１０日（月）２０：０５～２１：０５

場　所：クレイトンベイホテル　天の間

協力団体：なし

参加人数：８３人

事業目的：当委員会の推進する「意識改革」。そのために実施を予定している「市民討議会」とはいなるものを、まずメンバーの皆さんに、理解・体感していただくことで、実際の「市民討議会」の実施時の効果を向上させるため。

事業概要（方法）:「市民討議会」とはいかなるものを理解してもらうため、メンバーに対して「市民討議会」開催の意図・目的・実施方法など、より詳細な説明をパワーポイントや資料を織り交ぜ行った後、当該会議のメンバー向けの体験版として「体験版！市民討議会」を立ち上げました。本例会では、コンピューターによる無作為抽出にて４０名の参加依頼者の選定実施・「体験版！市民討議会」への参加依頼の配布・アンケート記入・出欠返信・抽選（１５名）までを行いました。

検証方法と効果：検証方法・例会後のアンケートにより理解度の検証を行った。
効果・アンケートの集計結果を見ると、参加メンバーの皆様に概ね市民討議会および体験版市民討議会についてご理解を頂けましたが、メンバーや事業対象者に対して、さらに理解や効果を高められるような手法や対策を検討していくことにつながりました。

## 事業名：ＪＡＹＣＥＥ郷土愛意識向上事業

## サブタイトル：「市民討議会」ってなに？
## ～知ろう！やってみよう！「体験版！市民討議会」その２～

日　時：２０１０年　６月　２４日（木）１９：００～２１：００
場　所：大和ミュージアム　４Ｆ　会議室
協力団体：呉市役所担当者様
参加人数：４６人
事業目的：当委員会の推進する「意識改革」。そのために実施を予定している「市民討議会」とはいかなるものを理解・体感することで、まずメンバーの意識改革を図り、実際の「市民討議会」の実施時の効果を向上させるため。
事業概要（方法）：大和ミュージアムにて呉ＪＣメンバーを中心に参加していただき「体験版・市民討議会」を行いました。
本事業では、呉市役所・総務企画部にオブザーブ参加を要請し３名の職員の方が、今後開催するであろう「市民討議会」の事前調査を含めた状況にて参加した。
具体的には、５人１組にて「公共の場の喫煙について」をテーマに意見交換していただき、その意見をブレーンストーミング形式にて集約し発表しました。これらの意見は是非を問うものではなく個人の意見を尊重し発表することを目的としました。
また、今回の体験版では、より皆さんに市民討議会の雰囲気を実感していただきたいとの思いから、前回の５月例会で抽出されなかった方にも参加いただきました。
検証方法と効果：検証方法・アンケート調査にて実施。
効果・本事業では、市民討論会は何たるか？を呉ＪＣメンバーに体験し、認識してもらえたことと、市民に向けての実際の市民討議会を行う上で、より効果的に行うための課題や問題点も見えることができました。

# 事業名：７月例会　　～新たなる歩みへと～

日　時：２０１０年7月５日（月）１９：５０～２０：５０
場　所：クレイトンベイホテル　天の間
協力団体：なし
参加人数：７３人
事業目的：「市民討議会」とはいかなるものかを理解する「体験版！市民討議会」を実施後、その有効性を実感していただいたメンバーの皆さんに「意識改革」へと繋がる確信を持っていただき、開催予定の「市民討議会」に協力してもらう。また、当委員会の最終目的「意識の輪を広げる（行動編）」を知っていただき、市民討議会で「意識改革」された市民の皆様と共に、行動編を協働して推進していく一助とするため。
事業概要（方法）：クレイトンベイホテルにて「７月例会」の時間を担当して６月２４日開催した「郷土愛意識創造事業」（体験版市民討議会）について報告を行うと同時に、今後開催する予定の「市民討議会」について説明・理解を促しました。
具体的には、報告書に代えて、呉ＪＣメンバー参加の討議会事業報告ＶＴＲ（１５分）を放映後、体験版市民討議会の一連の流れを完結するとともに、復習していただき、実際に呉市民が参加する「市民討議会」をイメージして理解をしていただきました。
その後、今後の討議会に参加していただいた市民の方が意識改革され、行動に移す姿をサンプル提示し、市民討議会後の展望をイメージしていただきました。
検証方法と効果：検証方法・例会後のアンケートにより検証を行う
効果・例会後の無記名による理解を図るアンケートについては、現役メンバー個人の意見が集約され今後の「良い点・悪い点」を確認・改善することに繋がると考える。それらは、今後の青年会議所活動にたいしても重要な参考資料になると思う。

# 事業名：くれ市民討議会２０１０　『Future with us』

## ～私たちの声を未来に～

日　時：２０１０年１０月１７日（日）９：００～１６：３０
場　所：ビューポート呉　大会議室
協力団体：呉市（後援）
参加人数：６１人
事業目的：「呉人」になるために必要な市民の「意識改革」において、有効な手段である「市民討議会」で、公平無作為に抽出された、サイレントマジョリティの参加による、討議部分を実施し、自分たちが議論することにより、意識改革の始まりを実感していただくため。
事業概要（方法）：無作為抽出によって選出された市民の皆様の中から参加承諾いただいた方たちに市民討議会の形式に則った討議を行っていただきました。
実施方法は以下の通りおこないました。
１）討議のテーマ、「みんな大好き私たちの呉市！」をメインテーマに「呉の良いトコ発見しよう！」、「市民のアイディアを生かして郷土を見つめなおそう」、「青空の下で元気に遊ぶ子供たちを増やそう！」で討議を行いました。
２）討議中の各小テーブルのまとめ係、書記係、発表係は、参加者にお願いし、各テーブルからでた集約意見に対して検証を含めたコメントを入れる検証役、テーブル補助係を委員会メンバーにて行いました。
３）討議会参加市民には有償・昼食を支給し、事前情報提供にて発表をして頂く外部協力者には昼食のみ支給しました。
４）マスコミの対応として、広く皆さんに知っていただく為に、中国新聞にきていただきました。
５）呉市議会議員２名にもオブザーバーとして参加して頂き、市民討議会を知って頂き、有効性を感じていただきました。
検証方法と効果：検証方法・参加者によるアンケート調査で検証を行いました
効果・市民討議会に参加した方が、どのように感じ、思われたか、また今後どのようなことを期待しているかを知ることができ、アンケートは効果的な検証となったと思います。

## 事業名：「呉人」として行動しよう！

## ～未来のわがまちのため　に責任を持って～

日　時：話し合い
　　２０１０年１１月　８日（月）１９：００～２１：２０
　　２０１０年１１月１７日（水）１９：００～２１：２０
　　２０１０年１１月２３日（祝）１３：００～１５：２０
　　実　　践
　　２０１０年１２月　５日（日）１０：００～１６：００
場　所：２０１０年１１月　８日（月）１７日（水）２３日（祝）･･･ビューポートくれ３Ｆ和室
　　２０１０年１２月　５日（日）･･･古川公園
協力団体：市民討議会参加者、呉市、呉中央小学校
参加人数：話し合い：７６人
　　実践：２００人
事業目的：市民討議会を行い、意識改革された市民の皆さんと共に、自分たちが自分たちの街を思い、言葉にしたことを行動に移し、真の『呉人』となること
事業概要（方法）：市民討議会で、みんなで意見を出し合い、議論したことにより、意識が高まった市民の皆さんと一緒に、今、自分たちに『何が出来るか』を具体的に考える場を設け、討議し、その結果を自分たちの手でより良いものとするよう『具体的な行動』を行いました。『具体的な行動』をする場としては、会議を重ね、呉市より使用の許可をいただいた古川公園を利用し、『昔懐かし遊び塾』～もちつき体験しながら昭和の遊びを楽しもう！～を行い具現化しました。
　　青年会議所メンバーも外部参加者と一緒に議論・協力し、共に事業を進めました。
検証方法と効果：検証方法・参加者による事業当日の感想で検証を行う。
　　効果・参加者が、どのように感じ、思われたか、また市民討議会から今回の事業まで行い、参加者の意識の変わりようを知ることができ、効果的な検証となったと思います。

# 未来の礎育成委員会

## 委員会報告

委員長　松島　周平

〔スローガン〕礎の条件

近年の会員減少問題が懸念されるなかで、会員拡大はもとよりＪａｙＣｅｅ個人の意識向上が急務と考え急務と感じていました。青年会議所がＪａｙＣｅｅという個人の集合体であるかぎり個々のメンバーの情熱と行動力はなくてならないものと考えます。

「礎」とは、石を並べ土台をなした「石据え」の意である。青年会議所の活動をするには礎となるメンバーが、愛するまちを明るい豊かな未来にする「理念」を持ち、自分たちが力をあわせやらなければならない「意識」を向上し、誰よりも先に「行動」することが責任と感じます。

そこで本年度当委員会では、２０１０年度仮入会員を呉青年会議所の「未来の礎」に育成することといたしました。

「未来の礎」を育成するに必要なこと、「礎の条件」とは何かを考え、「義・仁・勇・愛」から成り立つ「精神力・行動力」と、呉ＪＣメンバーになるまでの道のりに必要な「技術力」の両面より成り立つ「心・技・体」の確立が必要と考えました。

第１回セミナーでは「義」（人として守るべき正しい道）の精神を育成し、第２回セミナーでは「仁」（思いやりを持った行動力を身につける）を習得することで、このまちのために行動できる「未来の礎」としての基礎はできたと感じます。

並行して呉ＪＣメンバーになるための「基礎知識・事務スキル」については丁寧に繰り返し指導いたしました。

１０月例会には「勇」（勇み立つ気持ち）を持って挑み「勇気も兼ね備えた新入会員」の誕生にいたりました。

さらには１１月事業にて「愛」（慈しむ想い）を持って事業設営・運営することで、真の「未来の礎」となれたことと思います。

８名の「未来の礎」は呉青年会議所活動の即戦力として必ずや、わがまち呉の「明るい豊かな未来」の実現に寄与することと思います。

最後に、不出来な私のために委員会運営に尽力してくれた三宅副委員長・田村幹事・北川幹事に感謝するとともに、時に厳しく時にはやさしく親身になりご協力をいただいた委員会メンバーの皆さまに心から感謝し年間の事業報告といたします。

## 事業名：２０１０年度　入会申込者面接

日　時：２０１０年3月１７日（水）１９：００～２０：３５
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４Ｆ　瑞穂
協力団体：なし
参加人数：６３人
事業目的：入会申込者に対し、（社）呉青年会議所に入会するにふさわしいかどうか判断するため。
事業概要（方法）：入会申込者による３分間スピーチを行った。テーマは、「自分の信念とは」とし、入会申込者のスピーチの内容やその後の質疑応答、登壇姿勢などから審査を行った。
検証方法と効果：入会申込者面接終了後、監事２名に総評をいただいた。事前にテーマを決めてスピーチを行ったことは、入会申込者の「人と成り」を見ることが出来き、面接を行う際に、青年会議所理念との統合性を確認することにも繋がったと考える。

## 事業名：仮入会員オリエンテーション

日　時：２０１０年3月２７日（土）１８：３０～１９：５０
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　３Ｆ　鳳凰Ａ
協力団体：なし
参加人数：５３人
事業目的：仮入会員に対して、青年会議所の「概略・基礎知識・マナー」の研修をすると同時に、ＪＣ活動への参画意識を高める。
事業概要（方法）：日本ＪＣ作成のプレゼンテーションツールを使用し委員会メンバーによる講義を行った、また、呉ＪＣが開催した過去の事業への説明等を行い、今後の青年会議所活動を行っていくことへの心構えを教授した。
検証方法と効果：　オリエンテーション受講後に「印象に残ったこと」「今後の抱負」について記載し提出した。青年会議所の基礎知識の理解度を計ると同時に今後の活動への意欲向上に繋ったと考える。

# 事業名：「礎の条件」セミナー　その壱

日　時：２０１０年４月２３日（金）１９：３０～２１：３０
場　所：呉青山高等学校　格技場
協力者：古賀　稔彦氏
　　清水ヶ丘高等学校　柔道部監督　管野　哲也氏
参加人数：５３人
事業目的：仮入会員が「礎の条件」である「義≒人として守るべき正しい道」の意味を理解することで、今後の呉青年会議所活動に「理念」を持って行動できる呉人になるため。
事業概要（方法）：古賀稔彦氏を講師に招き、柔道の実践を交えての講演セミナーを行った。自身の過去の挫折から立ち直り栄光をつかむまでの過程と、その時に欠けていた「義」の精神、それらをどの様に身につけ、「自身の弱き心」に立ち向かったかについて、途中柔道の基本動作を交えながら講演していただきました。
検証方法と効果：題目「セミナーを受講して」を事後題目として提出した。仮入会員には、「当たり前」の事を「当たり前」にする難しさ、すなわち日常の生活に「義の精神」を持って行動することの重要性が伝わったと考える。

# 事業名：「礎の条件」セミナー　その弐

日　時：２０１０年6月１２日（土）８：４５～１３日（日）１２：３０
場　所：広石内（白糸の滝）～広公園～蒲刈（県民の浜周辺）
協力団体：県民の浜
参加人数：４４人
事業目的：仮入会員が「礎の条件」である「仁≒思いやりを持った行動力を身につける」の意味を理解することで、今後の呉青年会議所活動に「理念」を持って行動できる呉人になるため。
事業概要（方法）：１泊２日の日程にて、広石内（白糸の滝）～蒲刈（県民の浜周辺）を利用し、実施した。仮入会員には、本セミナーの具体的な目的等は明示せず、仮入会員を中心としたグループ活動をしていただき、移動手段は徒歩を基本とし、各チェックポイントにて目的に沿ったプログラムを随時実施しました。今セミナーにて、お互いが協力し合い困難を乗り切る事で生まれる友情が深まり、常に思いやりを持った行動が出来たと感じました。その結果、それぞれの意識が変わり本セミナーの目的である「仁」の精神を充分伝えられたと感じました。
検証方法と効果：１泊２日のセミナーを終えて「何を感じたか」「今後の行動について」の事後課題を提出した。それぞれ文章には「思いやり」「感謝」「協力しあう大切さ」などのキーワードがあり、また、それによって「同期の絆が深まった」という感想がみられた。本セミナーの目的である「仁」の理解に繋がったと考える。

## 事業名：呉ＪＣメンバーへの道のり①

日　時：２０１０年7月２７日（火）１９：００～２１：００
場　所：ビューポート呉　中会議場
協力団体：ＪＣＩ認定トレーナー（大川　伸郎氏）
参加人数：３９人
事業目的：仮入会員が（社）呉青年会議所メンバーになるために必要な行動力・実践力を習得するため。
事業概要（方法）：（社）日本青年会議所公認プログラム「ロバート議事法」について、セミナーを開催した。ロバート議事法についての仕組み・基礎知識を講演していただき、理事会のシミュレーションを行った。ロバート議事法の理念である「集団におけるコミュニケーション」の理解・習得できる内容となった。
検証方法と効果：インターン期間中に開催する「仮入会会議」議事録を作成提出することとした。その内容や精度の向上を認識することは、今後の呉青年会議所活動に有効となったと考える。

## 事業名：呉ＪＣメンバーへの道のり②

日　時：２０１０年9月２２日（水）１９：００～２１：３０
場　所：ビューポート呉　大会議場
協力者：ＪＣＩ認定トレーナー（中島　宏一郎氏）
　　アシスタントトレーナー（片岡　浩二氏）
参加人数：３７人
事業目的：仮入会員が（社）呉青年会議所メンバーになるために必要な行動力・実践力を習得するため。
事業概要（方法）：「効果的なプレゼンテーション」について、ＪＣＩ認定トレーナーをお招きし基礎知識の理解・実践するセミナーを開催した。
検証方法と効果：仮入会員の作成したプレゼン資料（自己紹介）を提出した。資料作成における工程管理能力向上に繋がったと考える。さらには、プレゼンする相手に向けて「わかりやすく伝わりやすい」プレゼンテーションをするスキル向上に繋がったと考える。

# 事業名：１０月例会（仮入会員担当例会）

日　時：２０１０年１０月４日（月）１９：５０～２０：５０
場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
協力団体：なし
参加人数：７０人
事業目的：仮入会員がインターン期間で学んだことの集大成として「勇≒勇み立つ気持ち」を持って例会を担当し、実践行動できる「呉人」とは何かを提示するため。プレゼンテーションするため。わがまちが「明るい豊かな未来」になるためのプレゼンテーションを行いました。
事業概要（方法）：十響会８名により、わがまちが「明るい豊かな未来」になるためには必要なこととして、呉仁育成プロジェクト「羽ばたけ！呉っこアカデミー」～愛と勇気があふれる社会の実現にむけて～のプレゼンテーションを行った。
検証方法と効果：各委員会にてアンケート用紙を記入していただいた。全体的に、「良い例会だった」という意見が多く、インターン期間で学んだことの成果が発揮できたと考える。即戦力となりうる「未来の礎」の誕生の日となった。

# 事業名：「未来の礎」開発事業

日　時：２０１０年１１月２４日（水）１９：００～２１：１０
場　所：シティプラザＳＵＧＩＹＡ　４Ｆ　瑞雲
協力者：ＪＣＩ公認ヘッドトレーナー　中島　宏一郎氏（中津ＪＣ）
　　アシスタントトレーナー　藤川　正智氏（みとよＪＣ）
　　真辺　崇志氏（高知ＪＣ）
　　トレーニー（研修）　加藤　均氏（佐賀ＪＣ）
参加人数：５６人
事業目的：このまちの青年経済人に、青年会議所活動を理解・体験していただき「明るい豊かな未来」を実現するための「礎」を構築するため。
事業概要（方法）：会員募集を兼ねた「未来の礎」開発事業を行いました。本事業では、地域の青年経済人を対象に、呉青年会議所の活動を体験するという内容で「マインドマップ」セミナーを開催した。その後、同プログラムを用いてメンバーによる「呉青年会議所の活動紹介」、参加者の方からの「会社紹介」を行い情報交換・スキル共有が図れた内容となった。
検証方法と効果：参加者（候補者）へのアンケートにて行った。参加者の方々からは「楽しかった」「参加してよかった」との意見をいただいたが、入会に直結することは無く反省すべき点と考える。しかし、呉青年会議所の活動を理解していただいたき啓発できたことは、今後の勧誘活動に繋がることと考える。

# 会員意識変革室

## 室　長　報　告

室長　山本　浩司

【スローガン】　　みせるＪＣ

２０１０年度、「みせるＪＣ」をスローガンとして１年間事業を展開してまいりました。

魁！！広報委員会では「旬」や「鮮度」を見逃さない、インタラクティブな情報受発信のもとに事業展開をしてまいりました。呉のゆるキャラ®をＨＰ内にて募集し、全国からの多くの応募の中から、「てつぞー」が誕生し、年間を通じて、呉地域の様々なイベントや、ＪＣＩ－ＡＳＰＡＣシンガポール大会や世界会議大阪大会では、呉の産業や呉の食を「てつぞー」を通じてＰＲしてまいりました。
まさに「旬」や「鮮度」を見逃さない「見せる」ＪＣとして新しい広報事業を展開していただきました。

組織の和強化委員会では「個と組織の一体感を創り出すＪＣづくり」に向けて、毎例会の厳粛で活力ある設営、そして強い絆で結ばれた組織を目指したメンバー間の交流活動・各種大会窓口など「魅せるＪＣ」として
組織の基礎として、呉ＪＣを支えてまいりました。

両委員長におかれましては、最初から最後まで、責任を全うし事業を展開していただきました。１人でも多くのメンバーに参加してもらおうと、委員会スタッフメンバーと共に活動したことが、すべての事業を大成功させることができたと思います。

今後も呉ＪＣの新しい伝統を作っていくという使命感を持って新しい時代と共に取り組んでいく団体でありたいと考えています。

# 魁！！広報委員会

## 委員会報告

委員長　松岡　秀直

〔スローガン〕「旬」で「鮮度」のある情報のさきがけをめざして

近年のインターネットの普及に伴う以前とは比べ物にならない程のスピードで情報化社会が進んでおり、時代背景の波に乗り、時代に付いて行くことが必要不可欠となっています。

そこで、当委員会は本年度「旬」で「鮮度」のあるインタラクティブな情報の受発信を基本理念として事業展開してまいりました。

まず、（社）呉青年会議所を広く多くの人に知って頂き、興味を持って貰うため、会員並びに特別会員及び一部関係諸団体を対象に、名簿と事業計画書を１冊にまとめた「会員手帳」を作成し配布しました。関係諸団体には、「事業計画書」を作成し配布しました。また、過去の事業紹介や本年度計画の事業の紹介を写真を中心に手に取りやすい形にしたリーフレットを主要な駅、ホテル、官公庁等に置き幅広くＰＲ致しました。

近年、携帯電話からインターネットをする方も増えてきているため、携帯専用のサイトも作成し、そこへ登録フォーム等の機能を持たせ、事業へ参加し易くしました。

ホームページ上では年が明けてすぐに新しい呉のゆるキャラを募集し、最優秀作品を実際に基ぐるみにしました。

４月２９日（祝）の呉みなと祭りに併せ、広島エフエムと共催で「せとうち ＳＥＡ ＳＩＤＥ ＦＥＳＴＡ くれ」を開催し呉の特産品を広くＰＲする事が出来ました。

また、６月にはシンガポールに於いて「呉の産業と観光」１０月には大阪に於いて「呉の食文化」を主に海外の方にＰＲ致しました。

今年１年間、（社）呉青年会議所の広報担当委員会としてより効果的なものを模索して活動して参りましたが、自分の思うような広報活動が全て出来たとは思いません。しかしながら、来年以降の広報活動をする上で何かのきっかけになったのではないかと感じております。

最後に１年間ご協力頂きました呉市のご担当者の方、各種団体、（社）呉青年会議所メンバーそして魁！！広報委員会メンバーの皆様に御礼申し上げまして委員会報告とさせて頂きます。

# 事業名：会員手帳・事業計画書作成

日　時：会員手帳　：新年互礼会時に配布
　　事業計画書：1月中に配布
場　所：会員手帳　：新年互礼会時に手渡し（現役会員）、その後メール便にて発送（特別会員）
　　事業計画書：メール便にて配布・一部手渡し
協力団体：なし
参加人数：延べ７０９人
事業目的：会員手帳を作成し、会員及び特別会員が２０１０年度の体制及び活動方針等を周知することにより、外部協力者に対し円滑に説明することができ、事業計画書を関係諸団体に対して配布し、事前に周知して頂く事により各事業に対してのＰＲを円滑に行えるため。
事業概要（方法）：会員手帳と事業計画書を作成し、会員、特別会員、関係諸団体に配布
検証方法と効果：事業計画書を配布した外部団体に対してアンケートを実施致しました。返信件数は３２／２２０件で返信率１４．５％でした。返信して頂いた団体では概ね回覧等で事業計画書を読んで頂いているようでした。
会員手帳を作成することによりメンバー同士のコミュニケーションが円滑に行われ、特別会員など手帳配布先に対しては、２０１０年度（社）呉青年会議所の目指すべき方向性を示すことができました。
また、事業計画書を作成し、外部団体に配布することにより、２０１０年度（社）呉青年会議所の基本方針並びに事業計画を明確に示すことができました。

# 事業名：（社）呉青年会議所リーフレット作成

日　時：年間を通して

場　所：各種事業会場等

協力団体：なし

参加人数：１，８３６名

事業目的：子供から大人まで幅広く呉地域市民等に、（社）呉青年会議所の活動内容を分かりやすく理解して頂き、各種事業に「楽しそう！行ってみたい！」と感じて頂くため。

事業概要（方法）：子供から大人までの幅広い方に（社）呉青年会議所の各種事業に「楽しそう！行ってみたい！」と感じて頂くようなリーフレットを作成致しました。また、新しい試みとして、ＱＲコードとチラシを挟み込めるポケットを設置致しました。

検証方法と効果：公共機関やホテル等の一般市民向けに配布するために置く所には、定期的に追加する際に配布部数の調査を行い、最終的に効果のあった場所とそうでない場所をまとめて次年度への引継ぎとしました。また、キーワード検索はリーフレット独自のキーワードとし、ＱＲコードからの閲覧と併せて、リーフレットからのアクセス数をカウント致しました。
効果に関しては、大和ミュージアムが部数の減少具合からが効果があると感じました。また、呉市企画情報課経由で呉市役所受付、観光振興課経由で呉駅の呉市掲示板チラシ置場、情報プラザ（レクレ内）に設置のご協力を頂き、いずれの箇所も全数配布出来ましたので効果を感じております。
ＱＲコードからの閲覧に関しましては、他事業のチラシ等にも使用致しましたのでリーフレットのみの効果ではありませんが、約３０００アクセスを頂ましたので効果はあったと思います。

リーフレット表面

リーフレット裏面

# 事業名：ホームページ作成・更新・管理

日　時：年間を通して

場　所：ホームページ上

協力団体：　なし

参加人数：６４，３０５名

事業目的：（社）呉青年会議所の活動を「旬」で「鮮度」のある情報としてホームページ（以下ＨＰ）を媒体とし広く公にインタラクティブな受発信をすることで多くの人にＪＣ活動をＰＲし、積極的に各事業に参加して頂くため。

事業概要（方法）：（社）呉青年会議所のＨＰを作成し、事業や例会等を紹介致しました。また、メンバー向けに理事会資料のダウンロードサービスを行いました。

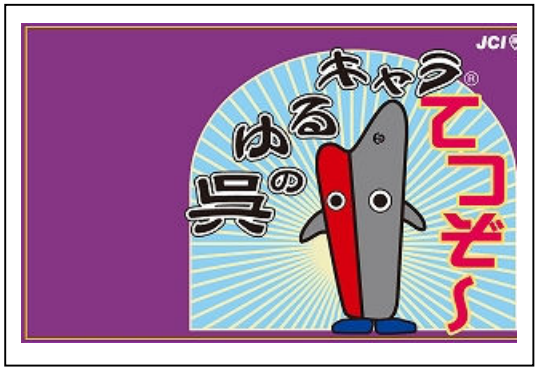
新しい試みとしてＰＣだけではなく、携帯サイトを立上げ、携帯からＨＰを閲覧する機能を追加し、気軽に事業に参加して頂くために携帯サイト上に各種事業等の申込フォームを作成致しました。またメール会員を募集し、メール会員向けに事業告知等を致しました。更にＨＰのアクセス数アップを目指して、新しい試みとしてＨＰ上で「呉のゆるきゃら」の募集とメンバーお勧めの呉のスポットを紹介致しました。

検証方法と効果：運営開始後はサーバーを定期的に点検してログ解析し、携帯電話からのアクセスやリーフレットの検索ワードからのアクセス等を分類し、どのような情報発信が効果的であるかを検証致しました。

効果と致しましては、携帯電話からのアクセスに関しては通常２０～３０アクセス／日で推移致しました。しかしながら、ゆるキャラの投票時には１日で１０００アクセスを超える日も有り、コンテンツを充実する事でアクセス数が伸びると感じました。ＰＣのアクセス数は８０～１５０アクセス／日で推移致しましたがアクセス数の挙動は形態サイトと似通っていました。

リーフレットからのアクセスに関してはＱＲコードを読み取る様なイベント（せとうちシーサイドフェスタ、ブロック大会）時にはアクセスがありましたが、その他ではほとんどありませんでした。

ＴＯＰページ




「てつぞー」壁紙

# 事業名：（仮）呉のゆるキャラをつくろうプロジェクト

日　時：１月～３月

場　所：（社）呉青年会議所ホームページ内、募集チラシ

協力団体：なし

参加人数：６，１３３名

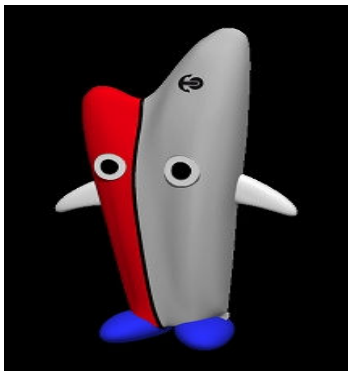
事業目的：呉の愛すべきキャラクター（ゆるキャラ）を広く募集し、可愛らしいキャラクターを創作し広く発表することで呉に対しての愛着を深めて頂き、地元に誇りを持って頂くため。

事業概要（方法）：（社）呉青年会議所の広報活動の一環として呉の新しいゆるキャラ®を募集し、応募総数６３３通、投票総数５，３９６件、企業協賛４７口頂きました。選考に関しては、選考委員会を開き、良いと思われる作品を選んで頂き概ね５０作品に絞りました。更にその中で気に入ったものを一人３票の投票で上位１０作品を優秀賞として選出致しました。３／１～３１までの期間で優秀賞をＨＰに掲載し、インターネット投票を実施致しました。投票の結果、呉市在住の村山弘樹氏応募の「てつぞー」に決定し、広島市立大学　及川久男教授にデザインを仕上げて頂きました。その後、着ぐるみを作成し、呉地域ＰＲ事業①等多種多様なイベントへ出演致しました。また、次年度以降は呉市観光振興課に寄贈致しました。

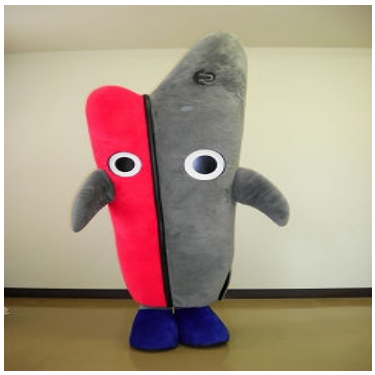
検証方法と効果：応募総数が６３３通でほぼ同時期に募集をしていた「雲仙国立公園キャラクター」の約１５０通と比較しても反響は大きかったと感じております。また、応募年齢が６～７６歳、地域も沖縄から北海道までの全国各地から応募を頂きましたので呉をＰＲ出来たと感じております。

また、本事業はＨＰのアクセス数増加を見込んだ事業でありましたが、インターネット投票時等は１日に１，０００アクセス以上頂きましたのでＨＰを媒体とした広報活動が出来たと感じております。

投票に関しても多数の投票を頂き、インターネットサイト「２ちゃんねる」で話題になり市民の方からの激励のメールを頂きましたので反響の大きさを感じました。



「てつぞー」ＣＧ画像



「てつぞー」着ぐるみ

# 事業名：４月例会

日　時：２０１０年4月５日（月）１９：５０～２０：５０

場　所：クレイトンベイホテル３階（天の間）

協力団体：広島エフエム放送株式会社　屋形　英貴氏

参加人数：８０名

事業目的：呉地域ＰＲ事業①の事業目的及び内容の説明をすることで会員の事業に対する意識を高め、事業時に呉地域のＰＲをより効果的に行うため。

事業概要（方法）：現役会員全員に呉地域ＰＲ事業①「せとうち　ＳＥＡ　ＳＩＤＥ　ＦＥＳＴＡ　くれ」の具体的な事業目的及び内容を説明致しました。また、事業を遂行するにあたっての必要な役割を説明し、周知して頂きました。説明に関しては、ＰＰを使用し目で見て内容が分りやすいように致しました。また、ステージの番組説明は広島ＦＭ屋形氏にご説明を頂き、番組及びライブの内容を周知致しました。

当日の役割分担を理解して頂いた後、委員会ごとに役割分担の希望を募り、希望に沿った役割分担（役割分担ドラフト会議）を致しました。各委員会の役割分担決定後、当委員会の各担当者から決定した役割の詳細説明を致しました。

みなと祭りで完成披露するゆるキャラの最終投票をし、最終票として審査の得票数へ反映させました。

検証方法と効果：呉地域ＰＲ事業①の事業に参加頂いた現役会員６５名、仮入会員５名の参加を頂き、楽しい祭りだったとの感想を頂きました。

事前に役割分担を決め、詳細説明することで事業当日は簡単な説明をし、分らない所は担当のリーダーに聞くことで事業に支障をきたす事がなく設営を展開する事が出来ました。

委員長趣旨説明

広島ＦＭ 屋形氏ステージ説明

# 事業名：せとうち　ＳＥＡ　ＳＩＤＥ　ＦＥＳＴＡ　くれ

日　時：２０１０年4月２９日（木）８：５５～１６：３０

場　所：大和ミュージアム裏甲板広場　大和波止場周辺

協力団体：広島エフエム放送㈱（共催）

参加人数：１０，２２０名

事業目的：呉の特産品を広く紹介することで、参加者に呉の魅力を感じて頂き、呉に愛着を持って頂くため。

事業概要（方法）：

①ゆるキャラお披露目について

８：５０から呉みなと祭りメインステージ（市役所前ステージ）にて新しい呉のゆるキャラ®「てつぞ～」のお披露目を行いました。その後、当事業のオープニングにて銀河に乗って登場し、オープニングを彩りました。１４：００からは呉みなと祭りのパレードに参加し、呉マリンクイーンの乗るオープンカーの先導を致しました。

当事業のエンディングにもＦＭステージに登場し会場を盛り上げました。

また、大和ミュージアム所蔵の着ぐるみ７体を拝借し、各所で「てつぞ～」のフォロー役として活躍致しました。

②銀河スタンプラリーについて

１１：３０から子供を中心に参加者１００名で開催致しました。スタンプラリーの種目は船特有のロープ結び体験、呉や海にまつわるクイズ、普通のラムネと塩ラムネの味比べ、海上保安庁提供のクラフト水平帽づくり、船長服を着てゆるキャラとの写真撮影を行いました。

③出展ブースについて

呉の特産品３０ブース、ＦＭスポンサーブース４ブース出店致しました。

ＪＣブースではオリジナル塩ラムネをメール会員に配布致しました。

④ＦＭステージ及びラジオ公開生放送について

ラジオの公開生放送を１２：００から１５：５５までの約４時間に渡り行いました。また、ステージ上では４組の歌手による生ライブを行いました。ライブの合間には、出店ブースからの生中継を行いました。

検証方法と効果：一般参加者にアンケートを実施し検証を行いました。アンケート方法に関しては回答率を上げるため行列に並んでいる方にメンバーから問いかける形でのアンケート調査を行いました。また、出店業者に売上報告をして頂き、効果を検証致しました。

全体的に若い世代が多く、その多くはＦＭラジオを聴いて来ていたので広島ＦＭとの共催は多大なる効果があると実感致しました。また、来場者のほとんどは広島県内からでしたが、呉市外の方が約７割を占めており多くの広島県内の方に対して呉の魅力を発信出来たと思います。

「てつぞー」お披露目

オリジナル塩ラムネ

パレード

出演アーティスト

出店ブース

エンディング

# 事業名：ＡＳＰＡＣシンガポール大会ジャパンナイトブース出展

日　時：２０１０年6月５日（土）２１：００～２４：００
場　所：ＪＣＩ－ＡＳＰＡＣシンガポール大会ジャパンナイト会場
　　マリーナ・ベイ・ストリート・サーキット
協力団体：なし
参加人数：１，０１７名
事業目的：国際系（アジア）の大会のジャパンナイトにおいて呉の産業紹介、呉地域の観光紹介を（社）呉青年会議所の媒体でＰＲすることで、国内の他ＬＯＭ及びアジア諸国の方に呉に興味を持って頂き、呉地域の活性化へつなげていくため。
事業概要（方法）：呉の産業のＰＲとして、海外と取引のある呉の企業８社にパンフレットやノベルティグッズを提供頂き配布致しました。また、観光のＰＲとして、呉観光案内を呉市役所から支給して頂き、配布致しました。
ブース設営に関しては外観を目立つように電飾し、多くの方に足を運んで頂ける設営と致しました。電飾にはクリスマス等で使用されるＬＥＤ電飾を使用致しました。また、看板には「製造と観光のまち　呉」と大きく掲げ、ブース内容をＰＲ致しました。
呉のゆるキャラ「てつぞー」の顔出しパネルを持ち込み、ブース内にて来場者に入って頂き記念撮影を致しました。
また、写真撮影をして頂いた方にゆるキャラのイラスト入りオリジナルうちわをプレゼント致しました。
検証方法と効果：ブース来場者に対して、呉に興味を持って頂いたかのアンケート調査を実施致しました。その結果、日本人に関してはほとんどの人が呉のことを知っていましたが、海外での認知度は低いことが分りました。また、製造業に関しては興味を示す方も多く、ＰＲ効果はあったと思います。
ゆるキャラの顔出しパネルでの写真撮影に関しては応じて頂ける方が多く、ＰＲ効果を感じております。

集合写真

協賛品配布状況

# 事業名：ＪＣＩ世界会議大阪大会ジャパンナイトブース出展

日　時：２０１０年１１月５日（金）１９：３０～２２：３５
場　所：ＪＣＩ世界会議大阪大会ジャパンナイト会場　京セラドーム大阪
協力団体：なし
参加人数：７，３５５名（主催者発表）
事業目的：世界大会のジャパンナイトにおいて呉の食文化等を（社）呉青年会議所の媒体でＰＲすることで、国内の他ＬＯＭ及び世界各国の方に呉に興味を持って頂き、呉地域の活性化へつなげていくため。
事業概要（方法）：新しい呉の名物「細うどん」を使って細焼きうどん２００食配布致しました。同時に細うどん協会作成の「呉名物細うどんマップ」を２００部配布致しました。また、「塩ラムネ」を１５０本配布致しました。
ブース設営に関しては、のれん風の看板を付け、ブースを屋台風に設営致しました。また、ジャパンナイト会場に呉のゆるキャラ「てつぞー」の着ぐるみを持ち込み、参加者と記念撮影を致しした。また、「てつぞー」の紹介チラシを配布致しました。
検証方法と効果：ブース来場者に対して、配布物の味の評価と呉の食文化についてのアンケート調査を実施致し、配布物の味を☆の数（最高５個）で評価して頂きました。両方とも８割以上の方から☆４つ以上を頂き満足して頂けたと思います。また、呉の食文化にも多くの方に興味を持って頂けたのでＰＲ効果はあったと思います。
「てつぞー」の着ぐるみに関しては、かわいらしいとの意見と、何か分らないとの意見が多く出ましたが、イカリのマークを見て「海」を関連する方が多かったので呉にちなんだキャラクターだと認知して頂けたと思います。

ブース状況①

ブース状況②

# 組織の和強化委員会

## 委員会報告

委員長　有本　雄一

〔スローガン〕　絆

２０１０年度、組織の和強化委員会では、地域社会から愛され、真に望み必要とされる団体となるために運動を展開し、また、行動するために、すべての活動がより円滑かつ効果的に行われるよう個と組織の一体感を醸成しメンバー同士が互いの活動状況を把握しやすく、積極的に協力し合える環境作りを目指し「絆」をスローガンに一年間活動して参りました。

そのために、毎例会では JAYCEE としての意識統一と確認の場とするため委員会 PR タイムを設けるなどして各委員会の状況をメンバー全員に把握しやすくする環境作りに努めました。

新年互礼会、高知来訪例会、創立記念日例会、卒業式、卒業送別会など体内的な要素が多い事業につきましても、公益性を十分に考慮し方向性を指し示しながら、行政や関係諸団体、特別会員の皆様に今後の理解と協力を仰ぎながら、共により高度な地域貢献活動を展開することに寄与できたと考えます。

また、近年公益性の問題で会員交流活動をあまり行っていませんでしたが、メンバーやその家族の絆を深め、また、ロムとしての結束を深め今後の青年会議所活動を円滑にするため会員交流活動を５月と８月に２回行い、組織の和を強化するための一助になったと考えます。

一年間、呉青年会議所の伝統である厳しさを守りながら、総務として「絆」をスローガンに個と組織の一体感の醸成に努めましたが、例会出席率は例年よりは少し高めでしたが、事業出席率などは高くない結果に終わってしまい、思ったような結果は残せなかった部分もあり残念に思います。

最後に、一年間いつも支えてくれたスタッフ、委員会メンバー、呉青年会議所の皆様、ご協力頂いたすべての方に感謝を申し上げ、委員会報告と致します。

# 事業名：例会及び総会の運営

日　時：毎例会及び毎総会

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：なし

参加人数：　人

事業目的：ＪＡＹＣＥＥとしての意識統一と確認の場とし、組織、所属委員会の一員であることを自覚し、より高度な地域貢献活動を展開するため。

事業概要（方法）：毎例会において、会場設営・運営・司会・出欠確認を行った。また、毎総会において、資料作成・会場設営・受付・運営・司会・議事録作成を行った。

検証方法と効果：例会、総会の運営と進行に際してスムーズかつ厳粛な雰囲気で行うことができました。本年度例会出席率向上を目指した結果、約８７％という例会出席率でした。

# 事業名：１月第１例会（新年互礼会）

日　時：1月９日（土）１９：００～１９：４０

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：なし

参加人数：関係諸団体４人　現役会員６７人　特別会員５７人

事業目的：２０１０年度（社）呉青年会議所の理念と基本方針について行政や関係諸団体に直接伝えることで今後のご理解とご協力に繋げ、より成果の高い地域貢献活動を展開するため。

事業概要（方法）：　２０１０年度（社）呉青年会議所の理念と基本方針について行政や関係諸団体に直接伝えるための例会を開催した。
ゴスペルのアトラクションで始まり、来賓紹介、特別会員紹介をした後、ＤＶＤにて（社）呉青年会議所の１年間の方向性を放映し、理事長挨拶へと続いた。

検証方法と効果：特別会員に口頭で意見を聞きました。
・２０１０年度呉青年会議所の方向性が理解出来た。
・ＤＶＤは良かった。
・理事長の想いが伝わった。
・ブロック大会主管に対する思いはよく伝わった。
上記の様な意見が得られた事から、特別会員、来賓に２０１０年度呉青年会議所の想いを伝える事が出来たと考えます。

# 事業名：６月例会（高知来訪例会）

日　時：６月１９日（土）１９：００～１９：５１

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：なし

参加人数：現役会員７０人　高知青年会議所５７人　特別会員７人　高知シニア３名

事業目的：呉ＪＣと高知ＪＣの連携を促し、より高度な地域貢献を展開するため

事業概要（方法）：オープニングで兄弟ＪＣ締結、呉・高知ＪＣの今年度の取り組、坂本龍馬と呉にまつわるＶＴＲを放映後、呉ＪＣ理事長挨拶、高知ＪＣ理事長挨拶、呉ＪＣ特別会員　代表幹事　槇岡達真先輩、高知ＪＣシニアクラブを代表して三谷一美先輩に御挨拶をして頂き、呉ＪＣ監事講評、高知ＪＣ監事講評をして例会を終了した。

検証方法と効果：アンケート結果で検証致しました。

【本日の例会で、お互いのロムの本年度の取り組みが理解できましたか？】
についての回答

呉ＪＣ　　良くわかった２０名　だいたいわかった１８名　良くわからなかった３名
高知ＪＣ　良くわかった１１名　だいたいわかった　７名　良くわからなかった１名

【お互いのロムへの意見、感想】

呉ＪＣ

・高知ＪＣと更に絆を深めることが出来た。
・思い出に残る例会となりました。

高知ＪＣ

・非常に丁重なおもてなしに感激しました。
・呉スピリットを高知にも反映させたいと思います。
・あらためて合同例会の重要性を再認識させて頂きました。
・兄弟ＪＣの大事さを感じました。
・心温まる設えありがとうございました。来年高知でお待ちしています。
・オープニングのＶＴＲは非常に良かったです。

以上アンケートの結果、互いのロムの取り組みにつきましては、概ね理解でき兄弟ＪＣ締結３５周年節目の年で更なる連携を促し、より高度な地域貢献を展開するための運動に繋げていく事に寄与できたと考えます。

# 事業名：１１月例会（創立記念日例会）

日　時：２０１０年１１月１１日（木）１９：００～１９：３３
場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間
協力団体：なし
参加人数：現役会員７０人・特別会員４５人
事業目的：呉ＪＣの創立以来の歴史の振り返りと今年度の事業報告をすることにより当団体の理念を再認識し、今後の高度な地域貢献活動を実現するため。
事業概要（方法）：呉ＪＣ５８回目の誕生日である創立記念日をキャンドル演出し現役会員と特別会員の皆様とお祝いすると共に創立よりの振り返りと今年度の事業報告をＶＴＲ放映にて行った。
検証方法と効果：現役会員は紙面でのアンケート、特別会員には口頭でアンケートを取りました。

【現役会員アンケート】
当団体の創立よりの理念が理解できましたか。
良く理解できた　２１名　　理解できた　１５名　　理解できなかった　１２名

【特別会員意見】
・キャンドル、オブジェは斬新で工夫が感じられて良かった。
・創立よりの映像が見ることが出来て良かった。
・創立時の映像を見ることが出来て良かった。
・昔の事業の大きさを感じた。
・特別会員の出席が多くて良かった。
・現役会員と特別会いの懇親が良く図れていて良かった。
・本年度の事業の映像見ることが出来、現在の現役の動きが見えて良かった。

呉ＪＣの創立よりの振り返りと本年度の事業報告をＶＴＲにて放映することにより創立よりの理念を再認識することが出来、今後の高度な地域貢献に実現することに繋げていく事に寄与出来たと考えます。

# 事業名：１２月第１例会（次年度担当例会）

日　時：２００９年１２月７日（月）１９：３０～２１：００

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　天の間

協力団体：なし

参加人数：現役会員７５人

事業目的：２０１０年度（社）呉青年会議所の理念と方向性、全委員会の基本方針をメンバー全員で共有することで、年間を通じて各委員会がよりよい事業を打てるように結束し、より高度な地域貢献活動を展開する出発点とするため。

事業概要（方法）：まず、理事長、専務によるスローガン垂れ幕の披露。次に、理事長所信及び基本方針の説明を行い、２０１０年度（社）呉青年会議所の方向性を示した。　その後、正副役員の紹介、副理事長挨拶後、室長紹介、室長挨拶後委員長紹介、事務局長挨拶後セクレタリーの紹介、出向者紹介並びに挨拶を行った。最後に委員会テーマソングをＢＧＭに各委員会登壇し、各委員会の基本方針を簡潔に示していただき最後に特別委員会紹介並びに挨拶を行い終了した。

検証方法と効果：２０１０年度のスローガンをメンバーに披露の後、理事長所信及び基本方針を説明することにより２０１０年度の（社）呉青年会議所の方向性をメンバー全員で確認することができた。
また、各理事メンバーが自らの決意を表明できたことで、次年度に向けた委員会活動の幕開けを共有することができた。

# 事業名：１２月第２例会（卒業式・卒業送別会）

日　時：２０１０年１２月１８日（土）１８：００～１９：３２

場　所：クレイトンベイホテル　３Ｆ　琥珀の間・天の間

協力団体：なし

参加人数：現役会員７８人　家族６人　特別会員４８人

事業目的：今年度の振り返りと検証を行い、また卒業生の功績を称え卒業後の公益活動を喚起することで、今後の明るい豊かな社会を実現するため。

事業概要（方法）：本年度の活動の振り返りと検証を行うことによって（社）呉青年会議所の今後の更なる公益活動に繋げ、明るい豊かな社会の実現へ向けて寄与するため開催された。

例会セレモニー、理事長バッジ交換、ＪＣ旗交換、理事長予定者挨拶、卒業式後、会場を移し本年度事業報告、理事長総括スピーチ、特別会員代表挨拶を厳粛な雰囲気のなか執り行われた。

検証方法と効果：現役会員は紙面でのアンケート、特別会員には口頭でアンケートを取りました。

【現役会員】

１、本例会で本年度の事業展開が理解出来ましたか。

良く理解できた３２名　理解できた１３名　理解できなかった６名

２０１０年度事業報告のＶＴＲを放映し理事長総括スピーチを行ったことにより、特別会員に対して、公益組織としての（社）呉青年会議所に対する賛同を得ることができ一方、現役メンバーに対しては、２０１０年度（社）呉青年会議所の軌跡を把握した上で２０１１年度以降、より高度で積極的な地域貢献活動をより多くの市民を巻き込んだまちづくり運動に繋げていく事に寄与できたと考えます。

# ブロック大会実行委員会報告

特別理事　田尻　康人

第４０回広島ブロック会員大会という節目の大会を１０年振りに主管することになり、その実行委員会の副委員長を務めさせていただきました。今大会は、第３０回大会より引き継がれてきた流れを汲みつつ、ブロック大会そのものの再構築を図かりました。事業立案の段階から、実行委員長とは何度も何度も「本当にこれでいいのか」「もっと方法があるのではないか」「これで今後１０年の礎になるのか」という事を考え、悩み、時にはお互いの考え方がぶつかり涙することもありました。公益性の追求はもちろんのこと、主管する地域の特性を活かし、今大会を通じて呉というまちを多くの方々に知っていただく、また、県内１２青年会議所の同士が一同に会するスケールメリットを活かし、我々青年会議所の運動における考え方や活動を発信し、多くの県民・呉市民の方に共感していただき行動していただく大会にすべく、２日間での開催にしました。特に、「こどもの未来創造プロジェクト」では、参加された県民・市民の方々に直接的に訴えることで、多くの共感を得ることができ、今後の行動の礎になったことはアンケート結果からも伺えるところです。

今大会を開催するに至るまでにたくさんの人々に支えられ、たくさんの勇気をもらいました。そんな皆様の支えがあったからこそ、このような事業を成し遂げることができたと感謝しております。最後までよりよいブロック大会にするためにどうしたらいいか共に悩み苦しんでくれた、ブロック大会特別委員会の皆様、準備も含め４日間の運営に全力で取り組んでくれた呉青年会議所メンバーの皆様、そしてこのような大役を私に任せてくれた児玉理事長に心より感謝申し上げます。

１年間、本当にありがとうございました。

## 事業名：ブロックコンベンション・リストラクチュアリング・プロジェクト：序
## ～同志の絆補完計画：２０１０～

日　時：２０１０年5月１日（土）～9月１２日（日）

場　所：広島県内

協力団体：なし

参加人数：８７人

事業目的：呉地域内外において、呉地域の特性を再発見、又は、構築することにより、地域社会の健全な発展に寄与する。

事業概要：ブロック大会当日に向けた効果的な動員を下記のとおり行った。

①スローガン垂れ幕作製

第１弾として、ブロック新春会議用に第４０回広島ブロック会員大会が呉の地で２日間実施させていただくことを、広く告知するために作成し、第２弾として、第４０回広島ブロック会員大会のロゴ、大会テーマ・スローガンを掲載した横断幕をＰＲキャラバン用に作成しました。

②ブロック大会ポスター作製

男たちのＹＡＭＡＴＯの告知用ポスターをモチーフに、ブロック役員団の顔をはめ込みパロディー化し内部告知用に作成しました。

③事前案内状作成・発送

例年以上に、事前案内状に力を入れ作成に取り掛かりました。事前案内状をいただいた方が、言ってみようと思えるような物を作成しました。

④メッセージカード作成

ロムメンバーの皆様にご協力いただき、県内青年会議所メンバーお一人お一人に手書きでメッセージカードを作成しました。

⑤呉ＪＣホームページ内ブロック大会専用ページ作成

ＰＲキャラバン訪問後にも、効果的にブロック大会の情報を県内青年会議所メンバーに伝播するには、最高の媒体ではあると考え作成しました。

⑥ＱＲコード作成

⑤呉ＪＣホームページ内ブロック大会専用ページを更新するたびに、登録してくださったメンバーの方に更新情報をすばやく伝播し、ブロック大会の最新情報を閲覧していただくことを目的に作成しました。

⑦ブロック大会告知用ＶＴＲの作成

男たちのＹＡＭＡＴＯをモチーフにブロック大会告知ＰＲＶＴＲにパロディー化し作成しました。

検証方法と効果：ブロック大会当日の動員状況等から検証する。

９月１１日（土）ブロック大会１日目の動員数は約４００名強、９月１２日（日）ブロック大会２日目の動員数は約３００名弱でした。また、来賓者は２１名、歴代ブロック会長は８名の参加をいただきました。

## 事業名：８月例会～「こどもの未来創造プロジェクト」おとなの背中～

日　時：２０１０年8月2日（月）１９：５７～２０：５７

場　所：クレイトンベイホテル

協力団体：平岡豊恵　氏（広島デンタルアカデミー専門学校　講師）

参加人数：６２人

事業目的：第４０回広島ブロック大会のメインである「こどもの未来創造プロジェクト」の一部を体験して頂き、メンバーの意識統一を図る。さらに、第４０回ブロック大会が間近に迫っている事を感じていただき、メンバーの事業への参加意識が高めると同時に、第４０回広島ブロック会員大会の円滑な運営の一助とする。

事業概要：①ブロック大会の運営と同時に行う事業の説明をし、事業の目的及び内容を理解していただいた後、その中の「こどもの未来創造プロジェクト」に焦点をあて、講演前に過去に呉ＪＣが行った子供に関する事業を基に作成したＶＴＲを上映し、当日パネリストとして参加して頂く平岡豊恵先生に講演をして頂きました。それを踏まえてブロック大会実行委員長をコーディネーターとし、平岡豊恵先生と対談形式で会場を巻き込んで、問題点や今後の方向性を呉ＪＣメンバーと共に共感して頂きました。メンバーには講演を聞いていただき、その後の対談形式でのディスカッションを通じて、未来の子供たちの夢を創造していく上での、大人たちの役割、市民レベルでのこれからの意識をどのように変えていけばいいのか、また、ＪＣとしての運動展開はどうあるべきなのかを伝えてさせていただきました。

②公演終了後、現役会員全員に第４０回広島ブロック会員大会が迫っているという意識の喚起を促し、会員大会を絶対に成功裏に治めるという思いを伝え、事業の円滑な運営に必要なメンバーとの意識統一を図るためにオープン委員会への参加もお願いしました。

検証方法と効果：アンケートを実施しました。結果は、例会に参加されたメンバー皆様には、「こどもの未来創造プロジェクト」の目的及び内容をご理解いただいたものと確信しております。

## 事業名：ブロックコンベンション・リストラクチュアリング・プロジェクト：破
## ～セカンドインパクト：２０１０

日　時：２０１０年7月１日（木）～９月１２日（日）

場　所：①OMOIYARI Chorus Of Children「思いやり子供コーラス」
練習場所：８月７日（土）１１日（水）２８日（土）９月４日（土）
ビューポート呉３Ｆ大ホール
８月２１日（土）呉文化ホール内リハーサル室
②　子供作文「僕の私の夢」募集
呉市内小学校
③　子供の未来講演会
呉市文化ホール

協力団体：呉市・呉市教育委員会
藤田　恵美　氏（ル・クプル）
植松　　努　氏（株式会社　植松電機）
平岡　豊恵　氏（広島デンタルアカデミー専門学校　講師）
山口　求　　氏（広島国際大学看護学部看護学科　教授）
寺沢　　希　氏
昆野　智佳　氏
田中　紗都子氏
平原　雅啓　氏
中原　佳苗　氏
平井　剛治　氏

参加人数：１５１人

事業目的：呉地域の特色・スケールメリットを活かし、全広島ブロック協議会青年会議所メンバーに共感・共鳴し、各ロムでの斬新で心のこもった現実的な活動の素地となり、さらには広島県民・呉市民にも意識改革の礎となる大会とする。

事業概要：ブロック大会にかかわらず、事業を成功させ、事業目的を達成するには、第１に外部告知を徹底し、第２に運営サイド内部を固め、最後に運営サイドと外部参加者の意識を有機的に結合させることにより、より効果的な事業運営が実施できることは言うまでもない。これは、日本の伝統芸能に良く見られる「序破急」の構成に良く似ている（「序破急」とは、能や人形浄瑠璃などで、脚本構成上の区分で、序は導入部、破は展開部、急は終結部を意味する）。その序破急の破を当事業で行った。
具体的な手法は以下のとおり行った。
１）子供の未来創造プロジェクト
①　OMOIYARI Chorus Of Children「思いやり子供コーラス」
７月１８日～７月３１日を募集期間として呉市内全小学生に参加公募のチラシを送付しました。５０名の定員を設けておりましたが、実際には４７名の応募に止まりました。８月７日の初顔合せ・説明会を皮切りに４回の練習を重ねました。コーラスの全体的な指導を寺沢希氏に依頼し、ボイストレーニング等の指導者として昆野智佳氏、ピアニストとして呉在住のエリザベト音楽大学生の田中紗都子氏で子供たちの指導にあたっていただきました。課題曲は「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」「We Believe」「ビリーブ」の３曲としました。「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」に関しては、手話をしながらのコーラスということで、こども達も苦戦しておりましたが、自宅でも練習できるように、各課題曲の歌詞カードとＣＤを配布したことが功を奏し、２回目には５割のこども達が、３回目にはほぼ全員が課題曲、手話を覚えてきてくれました。また、８月７日の初顔合わせ・説明会には、「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」を子供たちと一緒に歌ってくれる、

ル・クプルの藤田恵美氏もスケジュールを調整して参加してくれました。その結果、本番となった９月１２日には、自信に満ち溢れた思いやり子供コーラス隊の姿があり、このコーラス隊のオープニング曲「We Believe」「ビリーブ」で素晴らしい大会式典のスタートを切り、エンディングの「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」で大会を成功裏に締めていただきました。参加した子供たちには、自分に負けない心、他人を思いやる心、仲間を信じる心等、練習や本番を通じて確実に伝わったと確信しております。

② 子供作文「僕の私の夢」募集

７月１８日～７月３１日を募集期間として呉市内前小学校６年生に作文の募集チラシを送付しました。実際に、何通の応募があるかわからない中、結果４８通の作文の応募をいただきました。それを、ブロック大会実行委員会で、今大会の趣旨に合う夢作文１３通まで絞らせていただき、当青年会議所理事長と岩本実行委員長に最優秀作文３点と優秀作文１０点を選定していただきました。そして、最優秀作文に見事選ばれた、呉中央小学校、松尾雛乃さん、呉本通小学校、津田知弥君、同小学校、兼田紗瑛夏さんには、９月１２日の「子供の未来創造プロジェクト」の冒頭でそれぞれの作文の朗読をしていただきました。

③ 子供の未来講演会

講師に植松努氏をお招きし、子供の未来創造講演会を開催しました。講演内容は、未来の夢を創造できる子供たちがあふれるまちにするために、今大人がなにをするべきか！！と題し講演していただきました。ご自身の経験談を交え、子供たちに夢を持ち続けさせることの大切さ、夢をあきらめなさせないことの大切さ等を現在もご自身が取り組まれている活動も交え、分かりやすく説得力のある言葉で講演いただきました。多くの方からお褒めの言葉をいただき非常に有意義な講演になったと思います。

④ 「子供の未来創造討論会」

コーディネーターに住田ブロック会長・パネリストとして平岡豊恵先生、山口求教授、を招き１２ＬＯＭ理事長を交えて子供の未来創造討論会を開催しました。事前に、住田会長と平岡先生、山口教授と打ち合わせをし、いくつかの設問を作成しました。それを県内１２ＬＯＭの理事長様方に配布し解答していただきました。それを踏まえコーディネーターの住田会長とパネリストの平岡先生、山口教授と再度打ち合わせをして当日どの設問で討論するのかを決定してもらい当日を迎えました。コーディネーターの投げかける設問に１２ＬＯＭの理事長が答え、それに対して平岡先生と山口教授がそれぞれの専門角度から意見をしていくという斬新で非常に興味深い討論会となりました。参加された１２ＬＯＭの理事長はもちろん、傍聴していた青年会議所メンバーが、それぞれのＬＯＭに帰り、それぞれの活動で感じたことを遺憾なく発揮していただけることを切に願っております。

２）観光・ナイトマップ募集・作成

呉青年会議所メンバー全員に、お勧めスポットを募集し、それを呉のまちナイトマップ「ＫＵＲＥ ｄｅ Ｎｉｇｈｔ」という冊子を作成しました。事前発送を目指しておりましたが、募集に苦戦したことが、その後の作業に影響し結果、当日に配布することとなりました。全ての参加者に行き渡ったかまではわかりませんが、非常に見やすくわかりやすい冊子で、活用された方からは高評価をいただきました。

検証方法と効果：参加人数及びアンケートにより検証する。

参加人数としては、青年会議所メンバー３００人弱、青年会議所メンバー以外の方２００人強でした。また、アンケートの集計結果に

もあるように、「こどもの未来創造プロジェクト」で我々が参加された方々に伝えたかった内容も概ねご理解いただき、中には早速実行してみたいという記載も見え、「こどもの未来創造プロジェクト」をやってよかったと思いました。

## こどもの未来創造プロジェクト　アンケート

**１．どちらからお越しになられましたか？**

広島県呉市…１６　　広島県広島市…４　　山口県光市…１

**２．「僕の私の夢作文」をお聞きになってどのように感じられましたか？**

・こどもの夢を大切にしたいと思いました。
・希望をもって夢を書いている子や、心の痛みを踏み台にして将来に向かう子色々ですが、大人が希望を打ち壊すことをしてはいけないなと感じました。（ロビーの作文を読んでの感想）
・夢を持っている子供が居ることは、良いことだと思いました。
・自分のやりたいことをしっかり持っていて感動しました。
・子供の話を聞いて、私も小学生や中学生の頃は、色々な夢を持っていたと思います。私は色々な夢をあきらめたけど、子供たちにはあきらめず叶えてほしいです。
・子供らしくて良かったです。
・正直な思い、理由も述べられており、気持ちが伝わってきた。純粋な思いを大切にしてほしいです。
・素直な気持ちで、頑張って夢を実現してほしい。
・しっかりと夢を持っていると感じた。夢を持つことは大切だと思った。
・今の子供の夢というものがどんなものか聞く機会となってよかった。
・前向きに自分の夢について話している子供を見てほっとしました。
・私の子どもの頃よりも、しっかりした夢がありすごいと思った。
・良かったと思う。

**３．「思うは招く～夢があれば何でもできる～」植松努氏のご講演をお聞きになってどのように感じましたか？**

・私も子供の可能性をつぶさないように気をつけます。
・途中から聞きましたが、「どうせムリ」という言葉に負けず、自分の夢を求め続けたその姿は素晴らしいと思いました。とても素晴らしいお話でした。
・大人の価値観で考えず、できるだけ見守っていきたいと思った。
・私もよくあきらめてしまうことがあります。しかし、何もしなければ成長しないことを知り、これからはまずは、やってみよう行動していきたいと思う。
・本当に感動する話ありがとうございました。今日この講演に参加して本当によかったと思います。自分の夢を叶えられるよう努力していきます。
・最高でした！目からうろこ状態でこの講演を聴かなかった人は、損をしたと思います。人生観が変わりました。
・小さい頃は「どうして？」といった部分を大切にしてきたはずなのに、今では考える力、考えようとする思いが減少してきていると思う。分からないことをあやふやにして自分の都合に合わせていることが恥ずかしく思えた。失敗を恐れない心を大切にしたい。
・とても勉強になった。子供の可能性をつぶしてはいけないと感じました。
・興味を持ってことは続けることが大切。あきらめないことが将来に繋がることがわかった。
・とても感動した。私ももっと生活の中で夢や興味のあることをも付けて生きたいと思いました。“だったらこうしようを”自分でやっていきたい。
・とても感動した。周りの人の意見は関係なく自分の夢を持って進んでいくことが大切だと思った。これから頑張ろうと思う。
・私にも夢があったなと思いました。自分には何ができるか、もう一度考え直し、行動に移せるよう、努力しようと思いました。

・夢、目標、希望があればいつか実現する。
・「無理」という言葉を言わず、なぜそうなるのかを考えていくことが大切である。言葉で人の可能性を欠くことはいけないと感じた。
・良かったためになった。

**４．パネルディスカッション「こどもの未来創造会議」地域の大人は何をすべき？をお聞きになってどのように感じられましたか？**

・皆様のお話とても勉強になりました。
・いろいろ考えさせられました。
・最初の理事長さん方の紹介で「え～？大丈夫なの～？」と、ちょっと思いましたが、お一人お一人の意見を伺って、真剣に子供の姿を見守っておられるんだなと感じました。また、頼もしく思いました。子供に向き合う、子供の心に寄り添う、権利に主張の前に義務を果たす。とてもいい話を沢山聞かせていただきました。
・今の時代、地域のかかわりが少なくなって来ているが、少しでも地域の中にいる意識を持っていくようにしたいと思う。
・子供たちは大人をいつも見ているため、まずは自分達が子供の見本、モデルになれているか振り返ることが大切だと思います。
・子供と正面から向き合うことで、本当の意味で子供を理解できると思いました。今回は時間が短かったですが、また機会があればお話を聞かせてください。
・少し盛り上がりにかけていた。激論してほしかった…。
・叱ると怒るの区別。真剣に子供と向き合うことが大事。挨拶、会話等関わることが大切。
・地域で家族を支えることの大切さ。
・子供とのかかわり、些細なことでも大切だと思った。
・実際の父親と先生達のディスカッションは、とても興味深く聞くことができました。
・地域の人の子供への関わりがとても大切だということが良くわかった。
・子供たちにとって、過ごしやすい地域になっていくように、自分に何ができるかをもっと追求していこうと思った。
・理事長が全員でなくても代表でも良かったのではないか。子供のいない理事長は参加しにくかったのではないか。問題が良く似ているので、本当に話し合いたいことにしてほしかった。子供のために行動を起こしている理事長だけでもよかったのではないか？パネリスト＋２名くらいの理事長でよかったのではないか。
・子供にとって、親が見本を見せていくことが大切だと思った。好奇心を損なわずに、一緒に遊ぶことも大切だと思った。
・いろいろ考えさせられました。

**５．オープニングでのこども達の歌声に何を感じられましたか？エンディングでのル・クプル　藤田恵美氏と思いやりこどもコーラス隊の歌声をお聞きになってどのように感じられましたか？また、手話はいかがでしたか？**

・とても素敵でした。楽しそうに歌っている姿を見て、大きな力と可能性を感じました。
・とっても良かったです。かわいかったし、バックの演奏も素敵でした。
・藤田さんの透き通るような声と歌詞がとっても良かったです。緊張気味の子供たちがとてもかわいらしく感動しました。手話は心にまっすぐ訴えかける言葉で、とても良かったです。
・歌詞のような心を持って大人になってほしいです。
・すごく良かった。イベント成功です。
・良かったです。感動しました。１０月２８日の音楽会でこの曲を歌います。ビデオ撮影を許可してくださりありがとうございました。早速子供たちに見せてやります。
・とても良く覚えられて、一生懸命に練習したことが伺えて、本当に思いやりの大切さが伝わりました。
・とても感動しました。
・きれいな歌声で感動しました。あれだけの練習でこんなに上手になってすごいなと思った。ご指導してくださった先生方、青年会議所の方、皆さん楽しく優しく暖かい方々で、子供たちがとてもうれしそうに通っていました。本当にありがとうございました。

・手話がとても優しく訳されており、子供たちも大変上手に表現されて良かったです。

**６．本日、プロジェクト全体を体感され、地域の大人として、肖像力豊なこどもがあふれるまちにするためにどうすればいいと思われましたか？明日からのご自身の行動に何らかの影響があると感じられましたか？**

・やはり一人ひとりの少しだけでも何か行動を起こすことで動きがあると思います。私も何かしたいと感じました。
・良き大人のモデルとなるように頑張りましょう。
・まずは自分の子とまっすぐ向き合うことからはじめたいです。子供の心に寄り添うことを忘れずにいたいと思います。
・植松さんの講演を聞き、呉に関わらず子供に対しての行動、見方が変わると思います。感動です。
・子供と関わる場を自ら作り大事にしていきたいです。
・ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌が聞きたくて参加しました。パネルディスカッションに参加できてよかった。まずは、明るい挨拶から始めたいと思う。
・少しはあると思う。
・呉のためにがんばってください。ＪＣのことを知り、うれしく思いました。できることがあれば私も協力したいです。

**７．青年会議所という団体をご存知でしたか？**

知っていた…７名　　知らなかった…１４名

**８．今後、青年会議所に何かご希望や、ご意見がおありでしたらご記入下さい。**

・今のままで頑張ってください。
・若者の就職先、呉にも沢山できればよいと思います。６０歳過ぎても元気であれば社会と関わって行きたいです。
・地域の活性化のため、企業人として頑張ってもらいたい。
・呉のために植松さんのように是非頑張ってもらいたいです。
・もっともっと楽しく呉を盛りたてるためにがんばってください。
・これからも活動頑張って下さい。
・これからも、呉の元気のためにいろいろよろしくお願いします。
・スポ少ではない、子ども達同士の交流の場面がほしい。
・思いやりプロジェクトを続けてほしい。
・また、このような機会があれば参加したいです。

## 事業名：ブロックコンベンション・リストラクチュアリング・プロジェクト：急
## ～呉の中心で「愛と勇気」を叫んだＪＣ：２０１０

日　時：２０１０年9月１１日（土）～９月１２日（日）

場　所：クレイトンベイホテル（分科会）
大和波止場（大懇親会）
呉市文化ホール（大会式典）

協力団体：呉市・呉市教育委員会
横山　雄二　氏（ＲＣＣ）
西名　みずほ氏（ＨＴＶ）
藤田　恵美　氏（ル・クプル）
植松　　努　氏（株式会社　植松電機）
平岡　豊恵　氏（広島デンタルアカデミー専門学校　講師）
山口　求　　氏（広島国際大学看護学部看護学科　教授）
寺沢　　希　氏
昆野　智佳　氏
田中　紗都子氏
平原　雅啓　氏
中原　佳苗　氏
平井　剛治　氏

参加人数：９５３人

事業目的：呉地域の特色・スケールメリットを活かし、全広島ブロック協議会青年会議所メンバーに共感・共鳴し、各ロムでの斬新で心のこもった現実的な活動の素地となり、さらには広島県民・呉市民にも意識改革の礎となる大会とする。

事業概要：革新的なブロック会員大会を目指すべく、２日間にかけての開催としました。また、青年会議所メンバー・広島県民が「行ってみたい！」と思える大会とするため以下の方法を行いました。また、会員大会の運営を円滑にするために、分科会部会、懇親会部会、式典部会の３つの部会に分けました。

①分科会

柴崎部会長を中心に山本純也リーダーの下、家族の絆創造委員会に運営をしていただきました。広島ブロック協議会の事業を３会場で同時に行い、分科会の運営と会場周辺の案内等のお手伝いをしていただきました。

②大懇親会・卒業式

高橋部会長を中心に、ステージ関係の企画運営を濱本リーダーの下、郷土愛創造委員会で行っていただき、呉の魅力を最大限に活かした飲食ブースの企画運営を松島リーダーの下、未来の礎育成委員会と仮入会員で行っていただいた。また、大会前日から会場準備に入り、ステージの組立てから飲食ブースの設営に至るまで、各リーダーの下、準備を行っていただきました。

大会当日は、ＲＣＣアナウンサー横山雄二氏に司会のリードをしてもらいアシスタントとして当青年会議所小堀委員の２名で司会をしていただきました。また特設スクリーンに映像を映し、その中から海軍将校姿の住田ブロック会長に登場していただき、その流で冒頭の挨拶をしていただきました。ステージイベントとしてぶちレゲエを招き、広島にゆかりのあるアーティストの歌など５曲をレゲエバージョンで披露していただき会場を盛り上げていただきました。さらに、飲食ブースでは、呉の特産品を十二分に活かした１０ブースを満喫していただきました。

そして、今年度の県内１２ＬＯＭの卒業予定者にステージに登壇いただき、卒業式を執り行いました。現役会員を代表して送辞を住田ブロック会長にしていただき、卒業生を代表して眞田ブロック顧問に答辞をしていただきまし

た。その後、ステージ上の卒業生全員とぶちレゲエで「Best Friend」を大合唱し卒業式を締めくくっていただきました。最後に恒例の一本締めを柏原ブロック監査担当役員に行っていただき大懇親会を閉会しました。

その後、高橋部会長を中心に会場撤収にあたっていただきました。

③大会式典

山本浩司部会長を中心に、式典ステージ関係の運営を有本リーダーの下、組織の和強化委員会を中心に行っていただき、会場内外の受付及び案内、警備を松岡リーダーの下、魁！！広報委員会を中心に行っていただきました。前日が大会１日目だったこともあり、事前準備に時間が避けず、実際には大懇親会終了後に、最終リハーサルと共に会場準備を行いました。式典当日は、当青年会議所吉田委員とアシスタントのＨＴＶ西名みずほ氏で司会をしていただいた。最初に中村ブロック副会長の開会宣言で式典を開始し、竹鶴、博多ブロック副会長にＪＣＩクリード唱和、ＪＣ宣言朗読並びに綱領唱和をしていただき、物故会員の追悼を執り行った。続いて、来賓紹介・歴代ブロック会長紹介をし、住田ブロック会長挨拶、児玉開催地ＬＯＭ挨拶、４名の来賓に挨拶をいただきました。その後、祝電披露、２０１０年度ブロック役員紹介、１２ＬＯＭ紹介、２０１１年度ブロック会長挨拶、２０１１年度開催地発表、鍵の伝達式、と続き閉会宣言を島田ブロック監査担当役員にいただき式典を閉会しました。

④子供の未来創造プロジェクト

ⅰ　OMOIYARI Chorus Of Children「思いやり子供コーラス」

７月１８日～７月３１日を募集期間として呉市内全小学生に参加公募のチラシを送付しました。５０名の定員を設けておりましたが、実際には４７名の応募に止まりました。８月７日の初顔合せ・説明会を皮切りに４回の練習を重ねました。コーラスの全体的な指導を寺沢希氏に依頼し、ボイストレーニング等の指導者として昆野智佳氏、ピアニストとして呉在住のエリザベト音楽大学生の田中紗都子氏で子供たちの指導にあたっていただきました。課題曲は「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」「We Believe」「ビリーブ」の３曲としました。「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」に関しては、手話をしながらのコーラスということで、こども達も苦戦しておりましたが、自宅でも練習できるように、各課題曲の歌詞カードとＣＤを配布したことが功を奏し、２回目には５割のこども達が、３回目にはほぼ全員が課題曲、手話を覚えてきてくれました。また、８月７日の初顔合わせ・説明会には、「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」を子供たちと一緒に歌ってくれる、ル・クプルの藤田恵美氏もスケジュールを調整して参加してくれました。その結果、本番となった９月１２日には、自信に満ち溢れた思いやり子供コーラス隊の姿があり、このコーラス隊のオープニング曲「We Believe」「ビリーブ」で素晴らしい大会式典のスタートを切り、エンディングの「ＯＭＯＩＹＡＲＩの歌」で大会を成功裏に締めていただきました。参加した子供たちには、自分に負けない心、他人を思いやる心、仲間を信じる心等、練習や本番を通じて確実に伝わったと確認しております。

ⅱ　子供作文「僕の私の夢」募集

７月１８日～７月３１日を募集期間として呉市内前小学校６年生に作文の募集チラシを送付しました。実際に、何通の応募があるかわからない中、結果４８通の作文の応募をいただきました。それを、ブロック大会実行委員会で、今大会の趣旨に合う夢作文１３通まで絞らせていただき、当青年会議所理事長と岩本実行委員長に最優秀作文３点と優秀作文１０点を選定していただきました。そして、最優秀作文に見事選ばれた、呉中央小学校、松尾雛乃さん、呉本通小学校、津田知弥君、同小学校、兼田紗瑛夏さんには、９月１２日の「子供の未来創造プロジェクト」の冒頭でそれぞれの作文の朗読をしていただきました。

ⅲ　子供の未来講演会

講師に植松努氏をお招きし、子供の未来創造講演会を開催しました。講演内容は、未来の夢を創造できる子供たちがあふれるまちにするために、今大人がなにをするべきか！！と題し講演していただきました。ご自身の経験談を交え、子供たちに夢を持ち続けさせることの大切さ、夢をあきらめなさせないことの大切さ等を現在もご自身が取り組まれている活動も交え、分かりやすく説得力のある言葉で講演いただきました。多くの方からお褒めの言葉をいただき非常に有意義な講演になったと思います。

ⅳ　「子供の未来創造討論会」

コーディネーターに住田ブロック会長・パネリストとして平岡豊恵先生、山口求教授、を招き１２ＬＯＭ理事長を交えて子供の未来創造討論会を開催しました。事前に、住田会長と平岡先生、山口教授と打ち合わせをし、いくつかの設問を作成しました。それを県内１２ＬＯＭの理事長様方に配布し解答していただきました。それを踏まえコーディネーターの住田会長とパネリストの平岡先生、山口教授と再度打ち合わせをして当日どの設問で討論するのかを決定してもらい当日を迎えました。コーディネーターの投げかける設問に１２ＬＯＭの理事長が答え、それに対して平岡先生と山口教授がそれぞれの専門角度から意見をしていくという斬新で非常に興味深い討論会となりました。参加された１２ＬＯＭの理事長はもちろん、傍聴していた青年会議所メンバーが、それぞれのＬＯＭに帰り、それぞれの活動で感じたことを遺憾なく発揮していただけることを切に願っております。

ⅴ　一般市民動員

ブロック大会式典と子供の未来創造プロジェクトの動員として市民広報用チラシとポスターを作製しました。呉市内中心部の小学校全生徒にチラシを配布し動員に当たりました。また、国際大学呉キャンパスにも山口教授を通じてポスター・チラシを配布し動員にあたりました。さらに、山口教授が参加された「第 11 回チャイルドフェスタ in 呉」でもチラシを配布しました。

ⅵ　お土産ブースに関して

お土産ブースは、当初、県内各地ロムの物産展的な位置づけで計画しておりましたが、文化ホールの周辺での物品販売が認められず、ホール内（ロワイエ）での開催になりました。また、ホール内ということで火気の使用が認められず、結局お土産ブースとなりました。また、県内１２ロムにお土産ブースの出店の打診をしたところ、反応が悪く、三原ＪＣのみの参加となり、当ロムで出展依頼をした、天明堂、蜜屋本舗、クレイトンベイホテル、森沢ホテルの４店舗を含む５店舗でした。

検証方法と効果：アンケートを実施

アンケートの集計結果にもあるように、第 40 回広島ブロック会員大会に参加された市民の方々は、「子供の未来創造プロジェクト」を通して、我々の伝えたかったことが概ね理解されたように思います。

# ～出向者報告～

2010 年度　（社）日本青年会議所
国民意識確立グループ　日本の未来選択会議

副議長　奥原　誠次郎

今年度、（社）日本青年会議所・日本の未来選択会議の副議長として、一年通じて LOM メンバーを始め、多くの方々に出向や事業支援をして頂き、大変お世話になりました事を、まずは厚く御礼申し上げます。お陰様をもちまして、微力ながらも幾つかの事業と一定の成果をあげる事のできた一年でありました。

相澤会頭のもと、当該会議体の石川議長を始めとするスタッフ・メンバー一丸となり、【『未来選択』～７０８の青年会議所が未来を切り拓く～】のスローガンのもと、たくましく生き抜く国民意識の醸成の実現に向けた運動展開を推進して参りました。

本年度の背景として、前年度には衆議院選挙や各地の首長選挙において青年会議所の関わる公開討論会・検証大会が３００か所以上開催され、政策本位の政治選択の手法として全国的に認知が広がりつつある中、さらに継続的に市民がより政治への関心持っていただく為の施策を推進し、政策本位による責任ある投票への促進が引き続き肝要な基礎運動でありました。また、それら政治がしっかりと実行されているかの検証をするマニフェストサイクルの確立へ向けて、引き続き２０１０年度も各ブロック協議会、各地会員会議所とともにＬＯＭ重点依頼運動として全国各地で推進して参りました。

その中、各地会員会議所、各ブロック協議会の皆様のご尽力・ご協力をいただきながら、「未来選択の夏！！」と銘打ち、第 22 回参院選の全国一斉公開討論会の開催を扇動し、全国各地の 60 箇所を超える会場で開催を致しました。また今年度は、外部諸団体とも運動連携を強化し、「ニコニコ動画」などのソーシャルメディアを活用した討論会の動画配信「e－国政」を WEB 上にて展開、新しい選挙あり方に向けた挑戦もし、大きな成果を挙げることができました。

また、市民セクターに向けた自治意識向上の施策である「市民討議会」の開催推進も並行して展開、議会制民主主義における「政治選択」と「市民自治」の両面での意識向上をアプローチし、大きな成果と気付きを得る事ができました。

限られた時間の中での成果ではありましたが、内外ともに多少の益と次代への糸口に成る得る事業を敢行できましたのは、議長を始めるスタッフ・メンバー各氏や、呉 JC から多数出向いただいたメンバーの努力の賜物であり、心より感謝の意を表すと同時に、今後の LOM における地域での活動への一助にさせて頂ければ幸いに存じます。有り難う。

昨今、中央でも地域主権などの声が日増しに大きく謳われ、地域に主権力さえあれば、物事は全て適宜的確に判断されるとさえ言われている。「地域主権」とは何か？そして次世代の「市民自治」とはどういう事か？この答えの前提にあるのは、各人の“個”と相関的に存在する“地域”そのものを、まずは意識し認識する事にあります。地域を愛でる事のできる機会と気づきを与えて頂いたブロック協議会と、一年間出向者支援をして頂いた呉 JC メンバーの方々に、心より感謝申し上げて、一年の報告に替えさせて頂きます。

# セクレタリー報告

藤　井　聖
長谷川　誠
大竹山佳介
平原　雅啓

２０１０年度、「愛と勇気」の風に乗った児玉嘉則理事長の鞄を担がせて頂きました。

長きに亘り青年会議所運動を展開している正副役員の方々に同行させて頂くことで、様々な学びの場と機会を頂戴しました。

正副室会議、理事会など、深夜まで妥協のない議論を尽し、すべての事業に目的があり、手法は目的実現の為の手段であることを学び、協議、審議の様を見ることが出来たのは、非常に良い機会でありました。

各種会議、各種事業、各種大会、私利私欲なく真正面から論じ、行動している青年会議所は、とても大きな可能性を秘めた組織だと再認識できました。

また、ASPAC、世界会議に同行させて頂くことで、世界の広さを実感すると同時に、日本の青年会議所は、規模、運動共にリーディング NOM であること、そして、OMOIYARI 運動の全世界中への浸透に、JCI JAPAN の一員であることに誇りを感じました。

セクレタリーの立場だからこそ得られたことは多く、一生懸命は大切であるが、何事もバランスが最も大事であると感じます。何かを得るということは同時に失うことでもあり、常に選択の連続であるが、自分の役割、目標を主観的にも客観的にも見定め、ある時は情熱を持って傾きながらも、地に足をつけ、トータルとして正しい優先順位で、バランスよく選択・行動していくことが大切であることを学びました。

綱領にあるとおり、明るい豊かなまち、社会を築くために、英知と勇気と情熱を青年会議所で培い、行動し、結果、自分を常に成長し続けられる人間になる。その気づきの場としては、充分過ぎる一年間でした。

結びに、「愛と勇気」を自らの背中で語り続けて頂いた理事長に、常に優しく、ときに厳しくご指導頂いた専務理事に、あたたかく見守って頂いた役員に、そして、一緒に靴底を減らしてくれたセクレタリーの同志に、心より御礼を申し上げます。

この感謝の気持ち、一人前の Jaycee になることで恩返しとさせて頂きたい。

一年間、ありがとうございました。

# 2010年度（社）呉青年会議所収支決算報告書

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

社団法人　呉青年会議所

理　事　長　　児玉　嘉則

専務理事　　相原　新太郎

事務局長　　宍戸　勇二

【単位:円】

## （Ⅰ）一般会計の部

### (1) 一般会計収支計算書

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

〔収入の部〕

| 科目 | 2010年予算額 | 2010年決算額 | 過／不足△ | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 会費収入 | 17,835,000 | 17,655,000 | -180,000 | |
| 入会金収入 | 1,125,000 | 975,000 | -150,000 | |
| 登録料収入 | 690,000 | 605,000 | -85,000 | |
| 雑収入 | 400,000 | 388,100 | -11,900 | |
| 受取利息収入 | 15,000 | 8,418 | -6,582 | |
| 販売収入 | 0 | 0 | 0 | |
| 修繕積立金繰戻額 | | | 0 | |
| 補助金収入 | 870,000 | 958,500 | 88,500 | |
| （当期収入合計） | ( 20,935,000 ) | ( 20,590,018 ) | ( -344,982 ) | |
| 特別会計繰戻額 | 0 | 0 | 0 | |
| JC基金取り崩し額 | 0 | 1,500,000 | 1,500,000 | |
| 前期繰越収支差額 | 1,015,742 | 1,015,742 | 0 | |
| 合計 | 〔 21,950,742 〕 | 〔 23,105,760 〕 | 〔 1,155,018 〕 | |

〔支出の部〕

| 科　目 | 2010年予算額 | 2010年決算額 | 過△／不足 | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 事業費 | 11,590,000 | 11,334,538 | 255,462 | |
| 負担金 | 1,445,355 | 1,447,605 | −2,250 | |
| 管理費 | 7,680,400 | 6,934,550 | 745,850 | |
| ＪＣ基金当期積立額 | 1,125,000 | 1,598,426 | −473,426 | |
| 退職積立金積立額 | 54,000 | 54,000 | 0 | |
| 会費回収不能額 | | 486,490 | −486,490 | |
| 予備費 | 55,987 | 0 | 55,987 | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| （当期支出合計） | ( 21,950,742 ) | ( 21,855,609 ) | ( 95,133 ) | |
| 特別会計へ繰出額 | 0 | 0 | 0 | |
| 次期繰越収支差額 | 0 | 1,250,151 | −1,250,151 | |
| （うち当期収支差額） | ( −1,015,742 ) | ( 234,409 ) | ( −1,250,151 ) | |
| 合　計 | 〔 21,950,742 〕 | 〔 23,105,760 〕 | 〔 −1,155,018 〕 | |

## (2) 一般会計収支明細表

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

〔収入の部〕

| 科　目 | 2010年予算額 | 2010年決算額 | 過／不足△ | 摘　要 |
|---|---|---|---|---|
| 1. 会費収入 | ( 17,835,000 ) | ( 17,655,000 ) | ( −180,000 ) | |
| (1) 正会員会費収入 | 13,650,000 | 13,500,000 | −150,000 | |
| (2) 特別会員会費収入 | 4,185,000 | 4,155,000 | −30,000 | |
| (3) 特別名誉会員会費収入 | | | 0 | |
| 2. 入会金収入 | ( 1,125,000 ) | ( 975,000 ) | ( −150,000 ) | |
| (1) 正会員入会金収入 | 750,000 | 600,000 | −150,000 | |
| (2) 特別会員入会金収入 | 375,000 | 375,000 | 0 | |
| 3. 登録料収入 | ( 690,000 ) | ( 605,000 ) | ( −85,000 ) | |
| 4. 雑収入 | ( 400,000 ) | ( 388,100 ) | ( −11,900 ) | ファイン収入他 |
| 5. 受取利息収入 | ( 15,000 ) | ( 8,418 ) | ( −6,582 ) | |
| 6. 修繕積立金繰戻額 | ( ) | ( ) | ( 0 ) | |
| 7. 補助金収入 | ( 870,000 ) | ( 958,500 ) | ( 88,500 ) | 呉市及び企業協賛 |
| （当期収入合計） | ( 20,935,000 ) | ( 20,590,018 ) | ( −344,982 ) | |
| 8. 特別会計より繰戻額 | ( 0 ) | ( 0 ) | ( 0 ) | |
| 9. JC基金取り崩し額 | 0 | 1,500,000 | 1,500,000 | |
| 10. 前期繰越収支差額 | ( 1,015,742 ) | ( 1,015,742 ) | ( 0 ) | |
| 合　計 | 〔 21,950,742 〕 | 〔 23,105,760 〕 | 〔 1,155,018 〕 | |

〔支出の部〕

| 科目 | 2010年予算額 | 2010年決算額 | 過△／不足 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|
| 1. 事業費 | ( 11,590,000 ) | ( 11,334,538 ) | ( 255,462 ) | |
| (1) 家族の絆創造委員会 | 1,710,000 | 1,304,263 | 405,737 | |
| (2) 郷土愛創造委員会 | 760,000 | 686,993 | 73,007 | |
| (3) 未来の礎育成委員会 | 1,500,000 | 1,305,528 | 194,472 | |
| (4) 魁！！広報委員会 | 3,890,000 | 3,848,319 | 41,681 | |
| (5) 組織の和強化委員会 | 1,200,000 | 975,511 | 224,489 | |
| (6) ﾌﾞﾛｯｸ大会実行委員会 | 2,230,000 | 2,956,574 | −726,574 | |
| (7) その他の事業費 | 300,000 | 257,350 | 42,650 | |
| 2. 負担金 | ( 1,445,355 ) | ( 1,447,605 ) | ( −2,250 ) | |
| (1) 会費基本額 | 60,000 | 60,000 | 0 | |
| (2) 会費付加金 | 430,000 | 435,000 | −5,000 | |
| (3) JCI会費 | 98,280 | 98,280 | 0 | |
| (4) 日本JC出向者負担金 | 120,000 | 120,000 | 0 | |
| (5) 国際協力資金 | 166,075 | 166,075 | 0 | |
| (6) JCプレス購読料 | 250,500 | 247,750 | 2,750 | |
| (7) 地区負担金 | 41,500 | 41,500 | 0 | |
| (8) ブロック負担金 | 279,000 | 279,000 | 0 | |
| 3. 管理費 | ( 7,680,400 ) | ( 6,934,550 ) | ( 745,850 ) | |
| (1) 事務局職員給与 | 3,150,000 | 3,130,841 | 19,159 | |
| (2) 福利厚生費 | 430,000 | 498,388 | −68,388 | |
| (3) 旅費交通費諸手当 | 10,000 | 0 | 10,000 | |
| (4) 借室料 | 398,400 | 396,900 | 1,500 | |
| (5) 水道光熱費 | 432,000 | 367,169 | 64,831 | |
| (6) 消耗品費 | 1,200,000 | 992,758 | 207,242 | |
| (7) 通信費 | 700,000 | 534,425 | 165,575 | |
| (8) 印刷費 | 110,000 | 161,700 | −51,700 | |
| (9) 会議費 | 80,000 | 0 | 80,000 | |
| (10) 渉外費 | 300,000 | 238,450 | 61,550 | |
| (11) 会計監査費 | 126,000 | 126,000 | 0 | |
| (12) 雑費 | 744,000 | 487,919 | 256,081 | |
| 4. JC基金積立額 | ( 1,125,000 ) | ( 1,598,426 ) | ( −473,426 ) | |
| 5. 退職積立金積立額 | ( 54,000 ) | ( 54,000 ) | ( 0 ) | |
| 6. 会費回収不能額 | ( ) | ( 486,490 ) | ( −486,490 ) | |
| 7. 予備費 | ( 55,987 ) | ( 0 ) | ( 55,987 ) | |
| (当期支出合計) | ( 21,950,742 ) | ( 21,855,609 ) | ( 95,133 ) | |
| 8. 特別会計へ繰出額 | | | | |
| 9. 次期繰越収支差額 | ( 0 ) | ( 1,250,151 ) | ( −1,250,151 ) | |
| (1) 前期繰越収支差額 | 0 | 1,015,742 | −1,015,742 | |
| (2) 当期収支差額 | 0 | 234,409 | −234,409 | |
| 合計 | 〔 21,950,742 〕 | 〔 23,105,760 〕 | 〔 −1,155,018 〕 | |

## （3） 貸借対照表（一般会計）

〔2010年12月31日現在〕

| 借方科目 | 金額 | 貸方科目 | 金額 |
|---|---|---|---|
| 1. 現金 | 972,781 | 1. 未払金 | 311,120 |
| 2. 普通預金 | 838,397 | 2. 一般仮受金 | 444,456 |
| 3. 定期預金 | 8,379,050 | 3. JC基金 | 7,379,951 |
| 4. 未収金 | 1,019,450 | 4. 職員退職積立金 | 1,824,000 |
| | | 5. 前期繰越収支差額 | 1,015,742 |
| | | 6. 当期収支差額 | 234,409 |
| 借方合計 | 11,209,678 | 貸方合計 | 11,209,678 |

## （4） 財産目録（一般会計）

〔2010年12月31日現在〕

| 財産の内訳 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 科目 | 内訳 | | | 金額 |
| 1. 現金 | 手元在高 | | | 972,781 |
| 2. 普通預金 | | | | |
| | 呉信用金庫　本店 | No. 0456381 | 497,222 | |
| | もみじ銀行　呉営業部 | No. 2248674 | 334,654 | |
| | 広島銀行　呉支店 | No. 0599404 | 6,521 | 838,397 |
| 3. 定期預金 | | | | |
| | 呉信用金庫　本店 | No. 0067878 | 5,753,376 | |
| | もみじ銀行　呉営業部 | No. 9527229 | 1,265,000 | |
| | 広島銀行　呉支店 | No. 3045298 | 1,360,674 | 8,379,050 |
| 4. 未収金 | 呉市補助金 | | 400,000 | |
| | 供託金未収金 | | 44,450 | |
| | 会費未収金 | | 575,000 | 1,019,450 |
| （財産の額） | | | | 11,209,678 |
| 債務の内訳 | | | | |
| 1. 未払金 | 2010年事業報告書作成費・送料　オフィス・インク | | | |
| | | | | 311,120 |
| 2. 一般仮受金 | 供託金などを含む一般仮受金 | | | |
| | | | | 444,456 |
| （債務の額） | | | | 755,576 |
| 《正味純財産の額》 | | | | 10,454,102 |

## （5） JC基金増減計算書

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

| 科目 | 当期取崩額 | 当期積立額 | | 繰越基金の額 |
|---|---|---|---|---|
| 1. 前期繰越基金 | | | | 7,281,525 |
| 2. 当期基金増加額 | | 1,598,426 | | |
| 3. 当期基金減少額 | 1,500,000 | | | |
| 4. 次期繰越基金 | | | | 7,379,951 |

様式3-1　　（一般会計の部）　　《社団法人呉青年会議所》

## 正味財産増減計算表

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

【単位:円】

| 科目 | 金 | 額 | |
|---|---|---|---|
| Ⅰ. 増加の部 | | | |
| 1. 資産増加額 | | 1,317,411 | |
| (1) 現金増加額 | 831,961 | | |
| (2) 未収入金増加額 | 485,450 | | |
| | | | |
| 2. 負債減少額 | | 674,331 | |
| (1) 仮受金減少額 | 674,331 | | |
| | | | |
| | | | |
| 増加額合計 | | ( 1,991,742 ) | ( 1,991,742 ) |
| Ⅱ. 減少の部 | | | |
| 1. 資産減少額 | | 1,601,267 | |
| (1) 普通預金減少額 | 928,719 | | |
| (2) 定期預金減少額 | 672,548 | | |
| | | | |
| 2. 負債増加額 | | 3,640 | |
| (1) 未払金増加額 | 3,640 | | |
| 減少額合計 | | ( 1,604,907 ) | ( 1,604,907 ) |
| 当期正味財産増加額 | | | ( 386,835 ) |
| 前期繰越正味財産額 | | | ( 10,067,267 ) |
| 期末正味財産合計額 | | | 〔 10,454,102 〕 |

様式9-1　　《社団法人呉青年会議所》

## 正味財産増減計算表総括表

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

【単位:円】

| 科目 | 合計 | 一般会計 | 特別会計 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ. 増加の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | | | |
| (1) 資産増加額 | 1,317,411 | 1,317,411 | 0 |
| (2) 負債減少額 | 674,331 | 674,331 | 0 |
| 増加額合計 | 1,991,742 | 1,991,742 | 0 |
| Ⅱ. 減少の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | | | |
| (1) 資産減少額 | 1,601,267 | 1,601,267 | 0 |
| (2) 負債増加額 | 3,640 | 3,640 | 0 |
| 減少額合計 | 1,604,907 | 1,604,907 | 0 |
| 当期正味財産増加額 | 386,835 | 386,835 | 0 |
| 当期正味財産減少額 | 0 | 0 | 0 |
| 前期繰越正味財産額 | 10,067,267 | 10,067,267 | 0 |
| 期末正味財産合計額 | 10,454,102 | 10,454,102 | 0 |

様式8

《社団法人呉青年会議所》

## 収支計算書総括表

〔自2010年1月1日・至2010年12月31日〕

【単位:円】

| 科目 | 合計 | 一般会計 | 特別会計 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ. 収入の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | | | |
| 当期収入合計① | 22,090,018 | 22,090,018 | 0 |
| 前期繰越収支差額 | 1,015,742 | 1,015,742 | 0 |
| 収入合計 | 23,105,760 | 23,105,760 | 0 |
| Ⅱ. 支出の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | | | |
| 当期支出合計② | 21,855,609 | 21,855,609 | 0 |
| 当期支出合計② | 21,855,609 | 21,855,609 | 0 |
| 当期収支差額①－② | 234,409 | 234,409 | 0 |
| 次期繰越収支差額 | 1,250,151 | 1,250,151 | 0 |
| 支出・繰越差額合計 | 23,105,760 | 23,105,760 | 0 |

様式10

《社団法人呉青年会議所》

## 貸借対照表総括表

〔2010年12月31日現在〕

【単位:円】

| 科目 | 合計 | 一般会計 | 特別会計 |
|---|---|---|---|
| Ⅰ. 資産の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | 11,209,678 | 11,209,678 | 0 |
| | | | |
| | | | |
| 資産合計 | 11,209,678 | 11,209,678 | 0 |
| Ⅱ. 負債の部 | | | |
| 1. 大科目別記載 | 755,576 | 755,576 | 0 |
| | | | |
| | | | |
| 負債合計 | 755,576 | 755,576 | 0 |
| Ⅲ. 正味財産の部 | | | |
| 正味財産 | 10,454,102 | 10,454,102 | 0 |
| 負債及び正味財産 | 11,209,678 | 11,209,678 | 0 |

【注　記】

1. 2010年度は広島ブロック会員大会の主管に伴い、ブロック大会実行委員会が担当する事業費予定額を超える部分については、JC基金よりこれを充てることを理事会及び総会にて審議しました。
ところが、最終的な必要金額が確定するのに時間を要したことから、一旦暫定的な金額として150万円を取り崩したため、JC基金取り崩し額にはそのように会計処理されています。
他方、実際に事業費として支出されたのは72万6574円であるため、この金額をブロック大会実行委員会事業費として支出し、支出しなかった残額の77万3426円については、2010年度入会金収入82万5000円と併せて合計159万8426円をJC基金積立金として処理しています。

2. 会費の未収会費の回収不能額の計上については、3ヶ年を超えて支払請求を通知したにもかかわらず、支払意思の表示が、全く確認されないものを計上処理しています。

3. 支出項目については、年度当初の予算額を支出した決算額が超過した場合、会計期間のおおむね6ヶ月を経過した時点において、補正によって予算額を修するか、あるいは理事会決議により、他の支出項目余剰額からの流用を承認することを要することとしています。

4. その他の会計処理については、一般に公正妥当と認められる公的会計基準に準拠しています。

# 監 査 報 告 書

2010年度　社団法人　呉青年会議所に係る収支決算報告書について監査した結果、上記のとおり相違ないことを報告します。

2011年1月25日

**社団法人　呉青年会議所**　　《会計監査》

監　　事　大之木 伸行

監　　事　堀口 悟史

# 監 査 報 告 書

**社団法人　呉青年会議所**　　御中

上記、社団法人　呉青年会議所2010年度収支決算報告書に関して、本職は補助者3名をもって、一般会計における、現金の実査、諸預金の残高確認、諸帳簿の記帳証憑書類・関係書類の照合確認等監査致しました結果、すべて適正、適法に処理が且つ上記のとおり正当に表示されていることを認めます。

2011年1月25日

広島県呉市中通2丁目4番14号
武安会計事務所

監査人・税理士　武安紘二

JCI 社団法人 呉青年会議所
〒737-0045 呉市本通４丁目２−10 3F
TEL 0823-21-1081 FAX 0823-21-0800
http://www.kure-jc.or.jp/
E-mail info@kure-jc.or.jp